



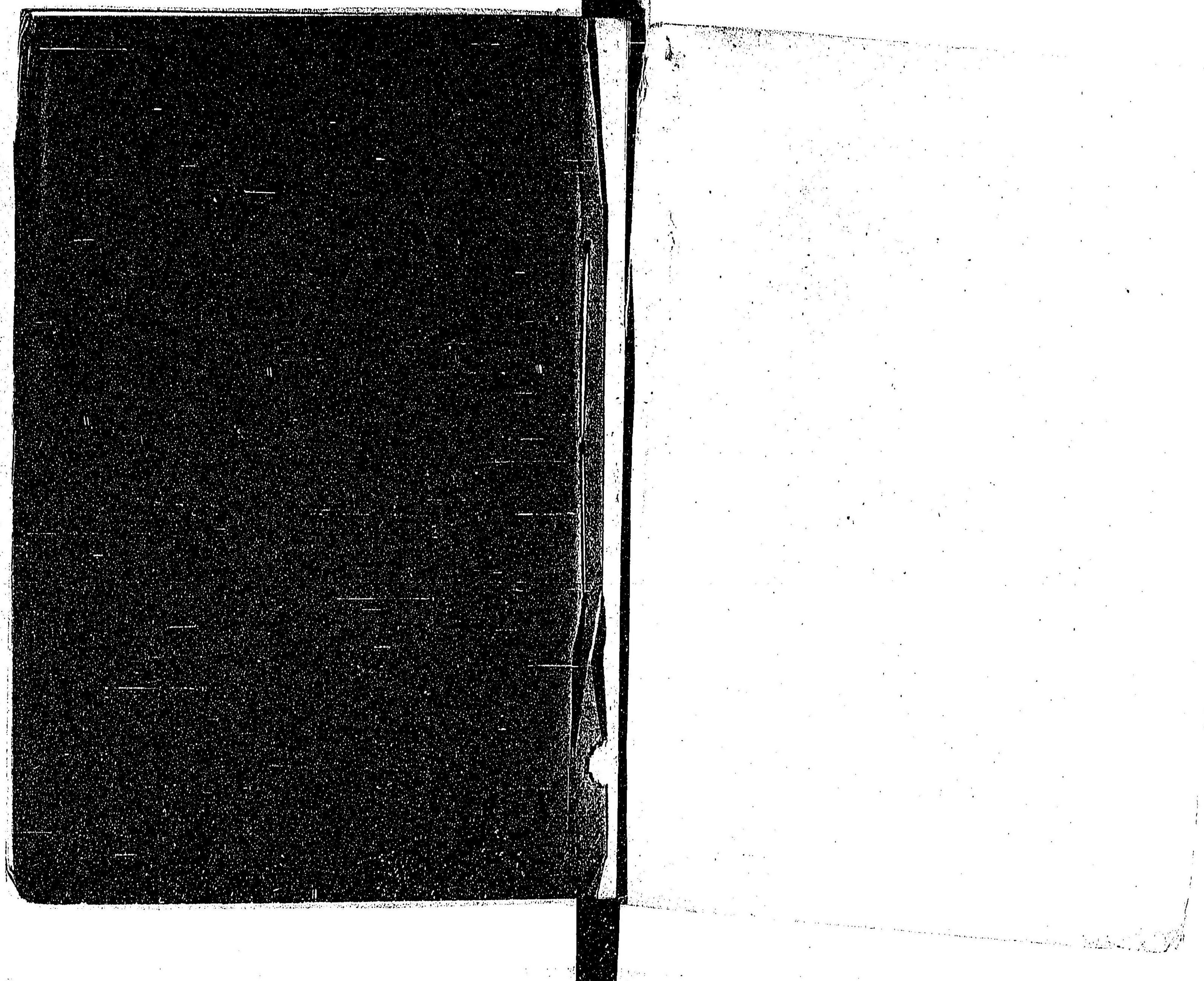
正改月二十年八十三治明

新法命令

次 目

全	酒	全	特	手	實	實	鑛	煙	鹽	全	非	全	相
施	造	施	許	數	用	用	業	草	專	施	常	施	續
行	組	行	法	料	新	新	法	賣	賣	行	特	行	稅
規	合	細			案	案	規	捌	法	規	別	規	法
則	法	則			ニ	法	則	規	則	則	稅	則	
					關	法							
					ス								
					ル								
全	例	全	官	全	軍	下	國	印	郵	茶	全	酒	
施	陸	施	吏	施	人	士	民	紙	便	業	施	母	
行	軍	行	恩	行	恩	卒	軍	稅	貯	組	行	醪	
規	一	規	給	規	給	家	條	金	貯	合	規	麴	
則	年	則	法	則	法	族	例	法	金	規	則	取	
	志					救			法	則		締	
	願					助						法	
	兵					令							
	條												

行發館文昭倉名



目次

○相續法	一頁
○全施行規則	十一頁
○非常特別法	十五頁
○全施行規則	五十二頁
○鹽專賣法	五十九頁
○煙草賣捌規則	六十六頁
○鹽專賣法	七十六頁
○實用新案法	九十四頁
○實用新案ニ關スル手數料	百〇四頁
○特許法	百〇五頁
○全施行細則	百十四頁
○酒造組合法	百卅五頁
○全施行規則	百卅七頁

明治
39 11
丙午

二

- 酒母、醪、麴取締法……………百四十二頁
- 全施行規則……………百四十五頁
- 茶業組合規則……………百四十九頁
- 郵便貯金法……………百五十六頁
- 印紙稅法……………百五十八頁
- 國民軍條例……………百六十二頁
- 下士卒家族救助令……………百六十四頁
- 軍人恩給法……………百六十五頁
- 全施行規則……………百八十二頁
- 官吏恩給法……………百八十六頁
- 全施行規則……………百九十一頁
- 陸軍一年志願兵條例……………百九十六頁
- 全施行規則……………二百〇二頁

特14
120

稅 法

(明治三十七年十二月三十一日法律第十號)

第一條 相續開始ノキハトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス
 一 本法施行地ニ在ル不動産及不動産
 二 本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利
 三 本法施行地ニ在ル不動産ノ外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セザルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 公課

二 被相続人ノ葬式費用
三 債務

被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 其ノ財產ニ係ル公課

二 其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラレル債務

三 其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

公共團體又ハ慈善事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第四條 相續財產ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル

船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二十年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價額トス

一年ニ滿タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス

二 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下
ナルモノ
地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
二倍

殘存期間三十年以下
ナルモノ
地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
三倍

殘存期間五十年以下
ナルモノ又ハ存
續期間ノ定ナキモ
地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
五倍

殘存期間百年以下
ナルモノ
地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
七倍

殘存期間百年ヨリ
長キモノ
地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
十二倍

三 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下
ナルモノ
永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
二倍

殘存期間三十年以下
ナルモノ又ハ存
續期間ノ定メナキ
モノ
永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
三倍

殘存期間五十年以
下ナルモノ
永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格
五倍

四 有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

五 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス
 六 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

- 二十歳未満ノ者 十年
- 三十歳未満ノ者 八年
- 四十歳未満ノ者 六年
- 五十歳未満ノ者 四年
- 六十歳未満ノ者 二年
- 六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保険料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ千圓、遺産相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痰疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痰者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタル

トキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ逐次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課稅價格	稅		率	
	相續人ノ種類	稅率	相續人ノ種類	稅率
五千圓以下ノ金額	相續人ノ種類	千分ノ十二	相續人ノ種類	千分ノ二十
五千圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ十五	相續人ノ種類	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ十七	相續人ノ種類	千分ノ三十
二萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ二十	相續人ノ種類	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ二十五	相續人ノ種類	千分ノ四十
四萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ三十	相續人ノ種類	千分ノ四十五
五萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ三十五	相續人ノ種類	千分ノ五十
七萬圓ヲ超エル金額	相續人ノ種類	千分ノ四十	相續人ノ種類	千分ノ五十五
十萬圓ヲ超エル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)	相續人ノ種類	千分ノ五ヲ加フ	相續人ノ種類	千分ノ五ヲ加フ

課税價格	税 率		
	相続人カ系直 卑屬ナルトキ	相続人カ配偶者又ハ 直系尊屬ナルトキ	相続人カ其ノ他 者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
千圓ヲ超エル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超エル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超エル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超エル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超エル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超エル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五
五萬圓ヲ超エル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超エル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
十萬圓ヲ超エル金額ハ其ノ五 萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相続ニ關シテハ遺産相続ニ關スル税率ヲ準用ス

第九條 相続人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相続ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相続人又ハ推定遺産相続人ニ對スル税率ヲ適用シ相続税ヲ課スルコト

ヲ得

相続人アルコト分明ナラザルトキハ税率ノ最高キ相続人ニ對スル税率ヲ適用シテ相続税ヲ課ス
前二項ニ依リ課税シタル後相続人確定シタルトキハ税率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徴シ又
ハ還付ス

第十條 相続税ヲ課セラレタル後三年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ前ノ相続額ニ對スル
相続税ニ相當スル相続税ヲ免除ス

相続税ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ前ノ相続額ニ對スル相続税
ノ半額ニ相當スル相続税ヲ免除ス

第十一條 相続人ハ相続開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ就職ノ日ヨリ三
箇月以内ニ相続財産ノ目録及相続財産ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出
スヘシ

相続カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所ヲ有セザル
トキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相続人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ
相続人ノ相続關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收税官廳ニ報告スヘシ

一 死亡又ハ失踪

二 戸主ノ隠居又ハ國籍喪失

三 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四 入夫婚姻ニ因リ女戸主カ戸主權ヲ喪失シタルコト

五 戸主タル入夫ノ離婚

第十三條 課税價格ハ政府之ヲ決定ス

第十四條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相續税審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第十六條 課税價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相續税ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ税金額百圓以上ナルトキハ相續税ニ相當スル擔保ヲ提供シ三年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 前項ニ依リテ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

第十九條 遺言執行者又ハ相續財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第二十條 遺言執行者又ハ相續財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第二十一條 相續税ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得

第二十二條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當ス

第二十四條 額ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ヨリ徴收スルコトヲ得

第二十五條 相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徴收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第二十六條 第三項ノ金額ノ徴收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 左ニ掲クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財産ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課税價格ト

九

第二十八條 審査ヲ求メ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ

第二十九條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ相續税ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第三十條 相續財産ヲ以テ相續税ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財産ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續税ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 相續税ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得

第三十二條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當ス

シテ本法ニ依リ相続税ヲ課ス

- 一 被相続人カ推定家督相続人又ハ推定遺産相続人ニ贈與ヲ爲シタルトキ
- 二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與
ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺産相続ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ
相続税ノ通脱ヲ圖リ又ハ通脱シタル者ハ其ノ通脱シ又ハ通脱セムトシタル税金ノ三倍ニ相當ス
ル罰金ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ税金ヲ徴收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相続税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●相続税法施行規則

(明治三十八年三月二十
二日勅令第六十八號)

第一條 相続開始地ノ稅務署ヲ以テ相続税ノ所轄稅務署トス

相続開始地カ相続税法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相続財産所在地ノ稅務署ヲ以
テ所轄稅務署トス相続財産カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財産ノ所在地ノ稅
務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 相続開始シタルトキハ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ相続税法第十一條第一
項ニ定メタル期間内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ニ相続財産目録及相続財産ノ價格中ヨ
リ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相続人二人以上ナル
場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相続人ハ之ヲ提出スルコトヲ
要セス

- 一 被相続人ノ氏名
- 二 相続開始地
- 三 相続開始ノ日
- 四 家督相続、遺産相続ノ區別
- 五 被相続人カ相続開始前一年内ニ相続税法施行地ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ
財産ノ價格及受贈者ノ住所氏名
- 六 相続人ノ住所氏名
- 七 相続人ト被相続人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審查委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

審查委員ノ任期ハ二年トス

第八條 審查委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審查委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審查委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審查委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審查委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條 審查委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審查委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審查ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審查委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財産ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求メトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪

ハサルニ至リタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 増擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 非常特別稅法

(明治三十七年三月三十一日法律第三號) (同年十二月三十一日法律第一號改正)

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ租稅ヲ增徴シ若ハ賦課シ又ハ印紙ヲ増貼シ若ハ貼用セシム

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ增徴

一 地租

市街宅地

地價百分ノ十七箇五

郡村宅地

地價百分ノ五箇五

其ノ他ノ土地

地價百分ノ三箇

二 營業稅

營業稅法ニ依ル稅額十五割

三 所得稅

第一種 所得

甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數

二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社

乙 其ノ他ノ法人

所得稅法ニ依ル稅額十五割

所得金額五千圓未滿

所得金額一萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額八割

所得金額一萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額九割

所得金額一萬五千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十割
所得金額二萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十二割
所得金額三萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十七割
所得金額五萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額二十三割
所得金額十萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額三十割
所得金額十萬圓以上	所得稅法ニ依ル稅額四十割
第三種 所得	
所得金額五百圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十割
所得金額千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十一割
所得金額五千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十三割
所得金額一萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十四割
所得金額一萬五千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十五割
所得金額二萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十七割
所得金額三萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十九割
所得金額五萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額二十一割
所得金額十萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額二十四割
所得金額十萬圓以上	所得稅法ニ依ル稅額二十七割

酒造稅法ニ依ル酒類

第一種	一石ニ付金二圓
第二種	一石ニ付金二圓
第三種	一石ニ付金二圓
第四種	一石ニ付金二圓
第五種	一石ニ付酒精分一度毎ニ金十錢
麥酒	一石ニ付金一圓

酒精又ハ酒精含有飲料

原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ
 原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ

一石ニ付金二圓
 一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金十錢
 酒造稅法ニ依ル酒類ニ對スル増徴稅率ニ同シ

沖繩縣酒類出港稅

五 砂糖消費稅

第一種	百斤ニ付金一圓
第二種	百斤ニ付金二圓八十錢
第三種	百斤ニ付金四圓三十錢
第四種	百斤ニ付金四圓七十錢

六 醬油稅

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合

醬油

溜

醬油稅則第二條但書ニ依ル場合

醬油

溜

諸味一石ニ付金五十錢

製成一石ニ付金五十錢

諸味一石ニ付金二十五錢

製成一石ニ付金二十五錢

七 登録稅

不動産ニ關スル登記

登録稅法第二條第三號ノ登記

登録稅法第二條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

華族世襲財産ノ創設

船舶ニ關スル登記

登録稅法第三條第三號ノ登記

登録稅法第三條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

登録稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登録稅

不動産價格千分ノ二十

不動産價格ノ千分十

不動産價格千分ノ三

不動産價格千分ノ五

船舶價格千分ノ三十

船舶價格千分ノ十

船舶價格千分ノ二

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ
一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

課稅標準千分ノ一

稅額金十圓ナルトキ金五圓

稅額金五圓ナルトキ金二圓

稅額金三圓ナルトキ金二圓

稅額金二圓ナルトキ金一圓

稅額金一圓ナルトキ金五十錢

稅額金五十錢ナルトキ金二十錢

鑛業ニ關スル登録

試掘權ノ設定

増區又ハ増減區ニ依ル試掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ因ル試掘權ノ移轉

探掘權ノ新規登録

増區又ハ増減區ニ因ル探掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ因ル探掘權ノ移轉

八 取引所稅

商品、有價證券

國債及地方債證券

每一件金二十五圓
每一件金十圓
每一件金十圓
每一件金五十圓
每一件金二十五圓
每一件金二十五圓

賣買各約定代金高萬分ノ六
同 萬分ノ二

九 狩獵免許稅

- 一等
- 二等
- 三等

金二十圓

金二十圓

金五圓

十 鑛區稅

- 試掘
- 採掘

鑛區一千坪毎二箇年金二十錢
 鑛區一千坪毎二箇年金二十錢

十一 賣藥營業稅

每方劑一箇年ノ製造高ニ對スル定價總額三

- 百圓未滿ノモノ
- 同五百圓未滿ノモノ
- 同千圓未滿ノモノ
- 同二千圓未滿ノモノ
- 同三千圓未滿ノモノ
- 同五千圓未滿ノモノ
- 同一萬圓未滿ノモノ
- 同二萬圓未滿ノモノ
- 同三萬圓未滿ノモノ

金一圓
 金三圓
 金五圓
 金七圓
 金十圓
 金十五圓
 金二十圓
 金三十圓
 金四十圓

十二 印紙稅

印紙稅法第四條ニ掲ケタル證書帳簿但シ約
 束手形及判取帳ヲ除ク

- 同五萬圓未滿ノモノ
- 同七萬圓未滿ノモノ
- 同十萬圓未滿ノモノ
- 同十萬圓以上

金五十五圓
 金七十圓
 金八十五圓
 金百圓

判取帳
 約束手形

印紙稅金一錢
 印紙稅金五錢

- 金高千圓以下
- 金高五千圓以下
- 金高一萬圓以下
- 金高二萬圓以下
- 金高三萬圓以下
- 金高五萬圓以下
- 金高十萬圓以下
- 金高十萬圓ヲ超ユルモノ

印紙稅金一錢
 印紙稅金四錢
 印紙稅金十三錢
 印紙稅金二十八錢
 印紙稅金五十八錢
 印紙稅金一圓十八錢
 印紙稅金二圓三十八錢
 印紙稅金四圓九十八錢

十三 輸入稅

- 大砲、小銃、拳銃、刀劍、砲彈、裝藥其ノ他諸兵器
 - 權衡及尺度
 - 晴雨計
 - 掛塙(各種)
 - 刃物(別項ニ掲ケサルモノ)
 - 電燈器械及同部分品
 - 消防器及同部分品
 - 農具、工匠具及同部分品
 - 樂器及同附屬品
 - 理學器、化學器、測量器、外科器其他諸學
 - 術器(別項ニ掲ケサルモノ)
 - 寫真器及同部分品
 - 蓄音器及同部分品
 - 眼鏡及同部分品
 - 獵銃及同附屬品
 - 電話機及同部分品
 - 寒暖計
- 從價五分
 - 從價一割
 - 從價五分
 - 從價一割
 - 從價五分
 - 從價五分
 - 從價五分
 - 從價五分
 - 從價一割
 - 從價五分
 - 從價一割五分
 - 從價一割
 - 從價一割
 - 從價一割
 - 從價一割
 - 從價一割
 - 從價一割

關稅定率法附屬輸入稅表第二類ニ掲クル物
品但シ生卵ヲ除ク

從價一割五分
從價一割

關稅定率法附屬輸入稅表第三類ニ掲クル物品

- 甲 絹製及絹入ノモノ、金銀珠玉入ノモノ、白金製、金製及銀製ノモノ
- 乙 其ノ他各種

關稅定率法附屬輸入稅表第四類ニ掲クル物品但シ酒精(アルコール)各種變性アルコール、各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク)龍腦、艾片、寫真用古魯胃謨及附屬ノ沃度意撒兒、麝香、人造麝香、松脂、曹達灰及苛性曹達ヲ除ク

酒精(アルコール)

各種變性アルコール

各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク)

龍腦及艾片

寫真用古魯胃謨及附屬ノ沃度意撒兒

麝香及人造麝香

從價五分

每リートル六錢

每リートル六錢

每リートル六錢

從價一割

從價一割

從價一割

關稅定率法附屬輸入稅表第五類ニ掲クル物
品但シ酸化古拔爾篤、金液、銀液及白金液
乾藍及ロクウードヲ除ク

從價五分

關稅定率法附屬輸入稅表第六類ニ掲クル物
品但シ隱玻璃片(尋常ノモノ)プレート玻璃
片(水銀ヲ塗リタルト否トヲ別タス)屑玻璃
及粉玻璃ヲ除ク

從價一割

關稅定率法附屬輸入稅表第七類ニ掲クル物
品但シ棉種子ヲ除ク

從價一割

棉種子

從價五分

關稅定率法附屬輸入稅表第八類ニ掲クル物
品但シ獸骨獸毛(羊毛、山羊毛及駱駝毛ヲ除
ク)牛皮及水牛皮(生、乾若ハ鹽漬等ノ治理
ヲ經サルモノ)象牙、屑象牙、鼈甲、屑鼈
甲及貝殼ヲ除ク

從價五分

其餘

從價五分

條、竿及板

筒及管

螺旋釘

從價五分
從價五分

銅

條、竿及板

釘

從價五分
從價五分

筒及管

從價五分
從價五分

線

從價五分
從價五分

銅貨及白銅貨

從價五分
從價五分

日耳曼銀

板、竿及線

從價五分

鐵及軟鋼

線索(電鍍シタルト否トヲ別タス)

從價五分

鉛

板

從價五分

筒及管

從價五分

鋼(軟鋼ニ非サルモノ)

線(傘骨用凹形ノモノ)

從價五分

線索(電鍍シタルト否トヲ別タス)

從價五分

黃銅

板

從價五分

條及竿

從價五分

釘

從價五分

筒及管

從價五分

別項ニ掲ケサル釘及螺旋釘

從價五分

提養用金具

從價一割

キヤブシコイル(罐ノ口ニ用キル金具)

從價五分

戸鎖、戸鈕、戸栓、蝶鉄類

從價一割

金銀其ノ他金屬箔及粉但シ青銅粉ヲ除ク

從價一割

金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)

從價一割

鍍金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)

從價一割

壁爐、置爐及附屬品

從價一割

貨幣匣

從價一割

傘骨及附屬金具

從價一割

其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ金屬製品但シ

從價一割

建築材、橋梁材、電線支柱其ノ他類似ノ材

料ヲ除ク

關稅定率法附屬輸入稅表第十類ニ掲クル物
品但シ椰子油、石油、亞麻子油、松精油及
スチヤリンヲ除ク

石油

從價五分

集畫帖(寫真用及郵便切符貼用ノモノ)

從價三割

白紙帳簿及書式類

從價一割

墨汁(寫字用及筆記用ノモノ)

從價五分

唐紙類(各種)

從價五分

鉛筆

從價五分

甲 金製及白金製ノモノ

從價一割

乙 其ノ他各種

從價五分

筆嘴

甲 金製ノモノ

從價一割

乙 其ノ他各種

從價五分

封蠟

從價五分

葉紙

從價五分

其ノ他各種ノ文具

從價一割

砂糖(和蘭標本色相第十五號未滿)

從價二割五分

糖蜜

二十八

糖水

從價二割

絹縫絲

從價二割

製本用綿布

從價一割

毛フェルト地

從價一割

絹絲類(別項ニ掲ケサルモノ)

從價一割五分

支那縮緬

從價一割

支那絹紬

從價一割

支那絹織子

從價一割

支那絹紋織子

從價一割

絹綿織子

從價一割

刺繡絹布及刺繡絹綿布

從價一割

其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタル
トナ別タス但シ絹ノ重量超過スルモノ)

從價一割

麻縫絲

從價一割

フェルト氈

從價一割

聽帷

從價一割五分

甲 絹製及絹入ノモノ

從價二割

乙 其ノ他各種

從價一割五分

靴襪護布

從價一割五分

甲 絹入ノモノ

從價一割五分

乙 其ノ他各種

從價一割

護謨紐類

從價一割

手巾

從價一割

甲 綿製、麻製及麻綿製ノモノ(單製)

從價一割五分

乙 絹製及レース製ノモノ

從價二割

蚊帳(各種)

從價一割五分

革布(家具等ニ用ヰルモノ)

從價一割五分

油布及リノリユム(牀ニ用ヰルモノ)

從價一割五分

襪衣

從價一割五分

甲 絹製及絹入ノモノ

從價二割

乙 其ノ他各種

從價一割五分

浴巾(單製連製ヲ別タス各種)

從價一割五分

綿線及苧麻線

從價五分

縫絲(別項ニ掲ケサル各種)

從價一割

其ノ他各種ノ布帛製品

從價一割

甲 絹製及絹入ノモノ
乙 其ノ他各種

諸製造煙草

支那酒(醸造シタルモノ)

清酒

各種ノ酒類但シ麥酒、黑麥酒、シヤムパン
及類似ノ沸騰酒、支那酒(醸造シタルモノ)
ポルト、清酒、シエリー、ウエルモツト及
葡萄酒(赤白ヲ別タス)ヲ除ク

每リートル五錢
從價一割

沈香

琥珀

從價一割

甲 加工セサルモノ
乙 加工シタルモノ

從價一割

動物但シ牛、馬、驢騾、綿羊、山羊及鶏ヲ除ク

從價五分

石絨(板)

從價五分

竹材(工ヲ加ヘサルモノ)

從價五分

革帶、帆布帶及帆布管(機械ニ用キルモノ)

從價五分

街球臺及附屬品

從價一割

プラスチック、セラチン其ノ他類似ノ爆發
藥、デトチートル及フエーズ

從價一割
從價五分

磚瓦(建築用ノモノ)

從價一割

ガラス及箒(各種)

從價一割

杖及鞭

從價一割

乘車、自轉車及同部分品

從價五分

貨車

從價五分

セリユロイド

從價一割

乙 工ヲ加ヘタルモノ

從價五分

白堊及ホワイチング

從價五分

木炭及骨炭

從價五分

粘土(各種)

從價五分

焦炭

從價一割

珊瑚(加工シタルト否トヲ別タス)

從價五分

苧麻繩索(船用ト否トヲ別タス)

從價五分

玻璃刀

從價五分

金剛砂

從價五分

金剛砂布及砂紙

從價五分

- 金剛砂砥其ノ他各種ノ砥石 從價五分
- 燈火(各種) 從價一割
- 造花 從價一割
- 額縁及天井縁 從價一割
- 海羅 從價五分
- 家具(新故ヲ別タズ別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割
- テンニス、クリツケット、象棋其ノ他ノ遊 從價五分
- 戲具(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割
- 阿膠(普通) 從價五分
- 綿火藥 從價一割
- 火藥(各種) 從價一割
- 石膏 從價五分
- 象牙製品(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割五分
- 金銀細貨類(貴石、眞珠等ヲ嵌メタルト否 從價一割
- トヲ別タズ) 從價五分
- 貼札(眼鏡等ニ用キルモノ) 從價一割
- ランプ、提燈及同部分品 從價一割
- 皮革製品(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割

麥芽

- マツチ(各種) 從價五分
- 支那蓆(一卷四十碼) 從價一割
- 椰皮蓆 從價五分
- 其ノ他各種ノ地蓆 從價五分
- 油畫、水畫、石版畫、著色石版畫、寫眞畫、 從價一割
- 法帖其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ書畫類 從價五分
- 瀝青、木蓆兒及石蓆炭兒 從價五分
- 巴黎灰 從價一割
- 骨牌(各種) 從價一割
- 石墨 從價五分
- 磁器及陶器(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割
- 貴石及眞珠 從價一割
- 貴石及眞珠(假製ノモノ) 從價一割
- ハツテキト 從價五分
- 籐(割キタルト否トヲ別タズ) 從價五分
- 馬具 從價一割
- 白檀 從價一割

- 吸煙器具(阿片吸煙具ヲ除ク) 從價五分
- 滑石(塊粉ヲ別タス) 從價一割
- スバルテリー(製帽用ノモノ) 從價五分
- 海綿 從價五分
- 石類(別項ニ掲ケサルモノ) 從價五分
- 甲 建築用其ノ他工作ヲ經サルモノ 從價一割
- 乙 裝飾用若ハ家具用其ノ他工作ヲ經タルモノ 從價一割
- 丙 肖像其ノ他彫刻シタルモノ 從價一割
- 海底電線及地下電線 從價一割
- 紫檀 從價五分
- 化粧具匣 從價一割
- 籠甲製品 從價一割
- 玩具(各種) 從價一割
- 旅櫃、提囊及佩袋 從價一割
- 傘類 從價一割
- 甲 絹及絹入ノモノ 從價一割五分

乙 其ノ他各種

- 傘柄及傘手(金銀製ヲ除ク) 從價一割
- 漁船、帆船及舟艇 從價五分
- 紫檀器及黒檀器 從價一割
- 其ノ他税目中ニ掲ケサル生粗若ハ未製品但シ帽體、製帽用裏革、紐鋼(時計彈條製造用及傘骨製造用ノモノ)ヲ除ク 從價五分
- 其ノ他税目中ニ掲ケサル全製若ハ半製品 從價一割
- 前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル
- 第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル
- 第三條 左ノ割合ニ依リ小切手ニ印紙税、砂金採取業者ニ砂金採取地稅、汽車電車、汽船ノ乗客ニ通行税、織物ニ消費税、繭、米及粳ニ輸入税ヲ課ス 一通毎ニ金一錢
- 一 小切手印紙税
- 二 砂金採取地稅
- 河床 採取區域一町毎ニ一箇年金三十錢
- 河床ニ非サルモノ 採取區域一千坪毎ニ一箇年金卅錢
- 三 通行税 二百哩又ハ二百海哩以上

一等	金五十錢
二等	金二十五錢
三等	金四錢
二百哩又ハ二百海裡未滿	
一等	金四十錢
二等	金三十錢
三等	金三錢
百哩又ハ百海裡未滿	
一等	金二十錢
二等	金十錢
三等	金二錢
五十哩又ハ五十海裡未滿	
一等	金五錢
二等	金三錢
三等	金一錢
四 織物消費稅	
毛織物	價格百分ノ十五
毛織物以外ノ織物	價格百分ノ十
五 繭(各種)輸入稅	從價一割

從價一割五分

六 米及粉輸入稅
 通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船コレテ等級ヲ分ケサルモノニ在リテハ三等ノ稅額ヲ適用シ二等級ニ分ケタルモノニ在リテハ二等三等ノ稅額ヲ適用シ四等級以上ニ分ケタルモノニ在リテハ最初ノ二等級ヲ以テ一等二等ト爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス
 貸切、定期又ハ回数乘船車若ハ多人數乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項第三號稅額ノ五倍トス
 第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ
 一 第一審ノ訴狀
 財產權上ノ請求ニ係ルモノ
 訴訟物ノ價額金五圓マテ 金五錢
 同 十圓マテ 金十錢
 同 二十圓マテ 金二十錢
 同 五十圓マテ 金三十錢
 同 七十五圓マテ 金三十錢
 同 百圓マテ 金五十錢
 同 二百五十圓マテ 金五十錢
 同 五百圓マテ 金二圓

同	七百五十圓マテ	金二圓
同	千圓マテ	金三圓
同	二千五百圓マテ	金五圓
同	五千圓マテ	金五圓
同	五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ	金一圓
同	財産權上ノ請求ニ非サルモノ	金五十錢

二 控訴狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額

三 上告狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ト同額

四 支拂命令ノ申請

訴訟物ノ價額金十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ト金二十錢トノ差額
 前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之ヲ通算スヘシ

五 其他ノ申立又ハ申請

期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受續ノ申立

從參加ノ申請

忌避ノ申請

和解ノ申立

費用額確定ノ申請

假執行ノ宣言ヲ求ムル申立

強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分ノ取消ノ申立

配當要求

家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立強制競賣又ハ

強制管理ノ申立

債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請

民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

證據調ノ申立

判決ノ送達ヲ求ムル申立

執行力アル正本ヲ求ムル申立

但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通ニ付

假差押又ハ假處分ノ申請

抗告

金二十錢

金五十錢

故障

答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立又ハ申請

金五錢

左ニ掲クル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 裁判上代位ノ申請

二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告

訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス

第五條ノ一 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 左ニ掲クル申立

抗告

債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

支拂猶豫ノ申立

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ
財團ノ價格金五圓マテ

金五十錢

金五錢

金十錢

同 十圓マテ

同 二十圓マテ

同 五十圓マテ

同 七十五圓マテ

同 百圓マテ

同 二百五十圓マテ

同 五百圓マテ

同 七百五十圓マテ

同 千圓マテ

同 二千五百圓マテ

同 五千圓マテ

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ

金二圓

金十圓

金十圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス

商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判所書記ニ口述シテ調査ヲ作ラシメタルトキハ其ノ調査ニ印紙ヲ貼用スヘシ

一 訴訟

金七圓

四十一

二 故障

四十二

三 證據調ノ申立

金一圓

四 判決ノ送達ヲ求ムル申立

金一圓

五 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

金四十五錢

六 從參加ノ申請

金四十五錢

七 忌避ノ申請

金四十五錢

八 費用額確定ノ申請

金四十五錢

九 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケサル申立又ハ申請

金二十五錢

裁判費用ヲ濟済スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ書類ハ其ノ效ナキモノトス但シ印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得

第五條ノ三 小切手ノ印紙稅ニ付テハ印紙稅法第六條、第八條、第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ適用ス

第五條ノ四 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未滿又ハ一十坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一十坪トシテ計算ス

第五條ノ五 糖金採取地稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

砂金採取業ノ許可又ハ採取地ノ變更ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル砂金採取地稅ニシテ訂年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第五條ノ六 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セザルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴ク者ニハ通行稅ヲ課セス

當該官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五條ノ七 繭、米及穀輸入稅ニ付テハ關稅法及關稅定率法中有稅品ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス
一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ外國ニ輸出セムトスル織物
二 製造者ノ自用ニ供スル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金又ハ相當印紙ヲ交付ス

第七條 毛織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ

毛織物以外ノ織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ移出スル前之ニ相當印紙ヲ貼用シ稅金ノ納付ニ代フヘシ但シ移出前織物ノ價格ニ依リ之ニ相當スル稅金ヲ納付シ織物ニ稅

金納付済ノ證印ヲ受ケタルトキハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ税額一錢未満ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第二項ニ依ル印紙ノ貼用、消印及税金納付済ノ證印ニ關スル方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ一 消費税額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三箇月以内ノ期間ヲ以テ毛織物消費税ノ徵收ヲ猶豫ス

第八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ織物ノ移出ヲ爲スコトヲ得

- 一 政府ノ承認ヲ得テ他ノ製造場ニ移出シ又ハ貯藏場ニ藏置スル爲織物ヲ移出スルトキ
- 二 政府ノ承認ヲ得テ染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ移出スルトキ

三 賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ

四 一定ノ場所ニ於テ消費税ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ織物ヲ移出スルトキ

五 輸出ノ目的ヲ以テ製造セル特殊ノ織物ニシテ製造場ニ於テ政府ノ免税證印ヲ受ケタルトキ
前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條ノ三 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル毛織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費税ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其價

格ヲ政府ニ申告スルコトヲ要ス

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ノ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物以外ノ織物ノ移出セムトスル者ハ之ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ但シ第七條第二項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項價格表記ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第六條、第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 織物又ハ石油製造者ハ第六條、第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ一 織物製造者ハ其ノ製造場ニ於テ織物ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認

許テ得製造ノ場所ト販賣ノ場所トテ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ二 織物販賣者印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣セムトスルトキハ販賣者ハ價格ヲ改記シ之ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第十四條 織物ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ毛織物又ハ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收税官吏ハ毛織物又ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り織物其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條ノ一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スルモノトシテ消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第八條ノ二ニ依リ移出シタル織物ヲ其ノ定メラレタル移出先ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第十條又ハ第十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキ

第十七條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ罰金額ハ五圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ販賣シタルトキ

二 第十三條ノ二ニ依ラスシテ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣シタルトキ

第十七條ノ三 織物販賣者印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

收税官吏前項ノ犯則ヲ發見シタルトキハ處罰セラレタルト否トテ問ハス販賣者ノ費用ヲ以テ其ノ織物ニ相當印紙ヲ貼用スルコトヲ得

前項ニ依ル費用ノ徵收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第十八條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 織物ノ製造者又ハ販賣者毛織物又ハ石油ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

二 織物ニ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ貼用又ハ消印ヲ爲ササルトキ

三 織物ニ價格ヲ表記スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ表記ヲ爲ササルトキ

四 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アル場合ハ刑法ニ依ル

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十條 織物ノ製造者販賣者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及間切島

附加税ノミヲ課スルトキ

地租 十分ノ五

段分割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ五ト附加税總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ

地租 十分ノ三

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ三ト附加税總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道府縣以外ノ公共團體ハ營業税又ハ所得税百分ノ三十ヲ超過スル附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第二條ニ依ル地租、營業税、所得税及釐區税ノ増徴額ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス
府縣費市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ其ノ金額以内ニ限り市町村ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得

明治三十六年度以前ニ起シタル負債ノ元金償還及利子仕拂ノ爲若ハ非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要シ又ハ其ノ費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得

北海道ノ宅地及海産干場ニ付テハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受クルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税又ハ段別割ヲ併課スルコトヲ得
水利ノ爲ニ費用ヲ要スル場合ニ於テ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得
第一項及第二項ノ制限ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業税、所得税ニ關シテハ明治三十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課税制限ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ適用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ税目又ハ税率ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スレモノハ其ノ牴觸ノ部分ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

第二十四條 (削除)

第二十五條 (削除)

第二十六條 本法施行後保税倉庫ニ庫入シタル砂糖ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ及糖蜜ニ付テハ庫出ノ日ニ於テ行ハルル輸入税率ヲ適用ス

第二十七條 平和克復ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限本法ヲ廢止ス

附 則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ不動産及船舶ニ關スル登録税ニ關シテハ明治三十八年四月一日ヨリ、鑛業ニ關スル登録税及試掘鑛區税ニ關シテハ鑛業法施行ノ日ヨリ、毛織物以外ノ織物消費税ニ關シテハ明治三十八年二月一日ヨリ、輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業税、所得税、賣藥營業税ニ關シテハ明治三十八年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ明治三十八年分賣藥營業税前半年分ノ増徴額ハ本法施行後一箇月内ニ之ヲ納ムヘシ
明治三十八年分鑛區税ノ増徴額及砂金採取地稅ハ本法施行ノ月ヨリ月割ヲ以テ計算シ本法施行ノ

日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願ヲ爲シ既ニ非常特別税法ニ依ル登録税ノ増徴額ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其ノ事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ本法ニ依ル増徴額ヲ納ムルコトヲ要セス

本法施行前ヨリ織物ヲ製造又ハ販賣シ本法施行後引續キ之ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ政府ニ申告スヘシ但シ毛織物ヲ製造スル者及自用ニ供スル毛織物以外ノ織物ノミヲ製造スル者ニ關シテハ此ノ限コ在ラス
前項ノ期間内ハ從前ノ製造又ハ販賣ヲ繼續スルコトヲ得

本法施行ノ際織物販賣者ノ所持スル毛織物以外ノ織物ニハ其ノ價格百分ノ十二相當スル印紙ヲ貼用ニヘシ但シ織物販賣者ハ本法施行ノ月ヨリ毎月ノ販賣高百分ノ十二相當スル金額ヲ其ノ翌月ヨリ一箇年以内ニ政府ニ納付スルノ條件ヲ以テ印紙貼用ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項但書ニ依リ印紙免除ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ本法施行後二十日以内ニ本法施行ノ際ニ所持シタル毛織物以外ノ織物ノ數量價額ヲ記載シ其ノ旨政府ニ申請スヘシ
本法施行ノ際織物ヲ販賣スル者ニハ本法施行後三十日以内ニ限リ第十七條ノ三ノ規定ヲ適用セス

附則第七項ニ依リ印紙貼用スヘキ場合ニ於テハ第七條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル場合ニ於テハ其ノ織物ニ移出前税金納付済ノ證明ヲ受クヘシ但シ小賣ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ハ毎月其ノ織物販賣高ヲ政府ニ申告スヘシ
附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ノ納ムヘキ金額ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

●非常特別税法施行規則

(明治三十七年三月三十一日勅令第
八十五號全年十二月三十一日改正)

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自用ニ供スルモノノミテ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第一條ノ二 株式會社又ハ株式合資會社カ所得税法施行規則第三條ニ依リ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スル場合ニ於テハ其ノ事業年度間ニ於テ最多數ナリシ時ニ於ケル株主又ハ株主及社員ノ數ヲ併セ申告スヘシ

第一條ノ三 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ一方劑毎ニ前年中ニ製造シタル賣藥ノ定價總額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第一條ノ四 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船ノ乘船車賃ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ

第一條ノ五 汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添附シ毎月十日迄前月分ノ通行稅ヲ各營業場所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムコトヲ得

官設鐵道ニ於テ通行稅ヲ金庫ニ拂込ムトキハ計算書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ
販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ織物製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ毛織物又ハ石油製造者ハ之ヲ提出スヘシ

第四條 織物製造者、製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ着手スル毎ニ着手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
毛織物又ハ石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取り又ハ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ所轄稅務署ハ前項ノ承認ノ省略ヲ許可スルコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場又ハ之ヲ設置スル貯蔵場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第九條ノ二 消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出スル場合ニ於テ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ其ノ織物又ハ其ノ物品ノ原料タル織物ニ付現金又ハ印紙ヲ以テ消費稅ヲ納付シタルノ證憑ヲ具シテ出願シタルトキハ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ輸出スル場合ニ於テハ消費稅納付ノ證憑ヲ具スルコトヲ要セス

第十條 製造者ニシテ其ノ自用ニ供スル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスルモノハ製造場外ニ移出セムトスルトキ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 非常特別稅法第八條ノ二ニ依リ政府ノ承認ヲ得又ハ政府ノ免稅證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ對シテ其ノ承認又ハ免稅證印ヲ求ムヘシ

第九條第三項ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス

第十二條 非常特別稅法第六條及第八條ノ二ノ場合ノ外製造場ヨリ毛織物ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シ併セテ其ノ價格ヲ申告スヘシ

第十二條ノ二 毛織物以外ノ織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ價格ヲ表記シ之ニ相當ス

ル印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ニ織物ニ縫著シ紙片ニ價格ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十二條ノ三 非常特別稅法第七條第二項但書ニ依リ稅金ノ納付ヲ爲サムトスル者ハ織物ノ移出前其ノ旨所轄稅務署ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼附シ又ハ織物ニ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十四條 非常特別稅法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス
第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ
擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ有價證券ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十七條ノ二 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ニ申出テ其ノ承認ヲ得タルトキハ代リ印紙ノ交付ヲ請求シ又ハ更ニ納稅濟ノ證印ヲ請求スルコトヲ得

第十七條ノ三 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ヲ小切ント爲シテ販賣セムトスルトキハ成ルヘク印紙貼用又ハ證印ナキ部分ヨリ之ヲ切離スヘシ但シ印紙貼用又ハ證印アル部分ヲ切離スル必要アルトキハ其ノ貼用印紙又ハ證印アル部分ヲ切取り之ヲ保存シ毎月分ヲ取纏メ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ廢業ノ處分ヲ受クヘシ

第十八條 織物製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ藏置場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十三條 本令中稅務署ト稱スル臺灣ニ在リテハ廳ヲ謂フ(明治三十七年五月十日勅令第三百三十九號)

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ三ニ依ル申告ハ明治三十八年ニ限り本令施行後十五日以内ニ之ヲ爲スヘシ
明治三十八年法律第一號附則ニ依リ申告又ハ申請ヲ爲シ若ハ税金納付済ノ證印ヲ受クヘキ場合ニ
於テハ所轄稅務署ニ對シテ之ヲ爲スヘシ

●鹽 專 賣 法

(明治三十七年十二月三十一日法律第十二號)

第一條 政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス

第二條 政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ヘシム

第三條 鹽ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セザル地ヨリ移入スルコトヲ得ス

第四條 鹽ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第五條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遅延シタル場合ニ於テ又ハ製造者ノ自家用ノ爲所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條 政府ハ製鹽地ノ區域又ハ鹽ノ製造期間若ハ生産高ヲ制限スルコトヲ得

前項ニ依ル制限ハ鹽ノ試製ニ之ヲ適用セス

第七條 鹽製造者ノ製造シタル鹽ハ政府之ヲ收納ス但シ命令ノ定ムル制限數量以内ノ鹽ニシテ鹽製造者ノ自家用ニ供スルモノ又ハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ依リ再製シタル鹽ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第九條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯藏場及一年ノ生産見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條 鹽ノ製造業ト鹽ノ賣買業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼スルコトヲ得ス但シ政府ノ賣渡シタ

ル鹽ニ依リ再製スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ届出ツヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 鹽製造者ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ

政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許

可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スル

モノハ此ノ限ニ在ラス

政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府カ鹽ノ數量ヲ定メ引渡ヲ命シタルトキ製造者之ヲ政府ニ納付シ

タルモノト看做ス

第十五條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ鑑定人ヲシテ其ノ品質ヲ鑑定セシメ相當ノ賠償

金ヲ交付スヘシ

製造者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ更ニ

相當ノ處理ヲ爲シタル上納付スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十七條 政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所、納付期日及其ノ運搬通路ヲ定ムルコトヲ

得

第十八條 政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スヘシ

前項ノ定價ハ賠償金ヲ交付シテ收納シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ品質ニ相當スル賠償金ニ一石

ニ付金二圓五十錢又ハ百斤ニ付金一圓四十八錢ノ割合ノ金額ヲ加算シタルモノヲ起エテ之ヲ定

ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲クル鹽ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スコト

ヲ得

一 外國ニ輸出スルモノ

二 命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スルモノ

前條ニ依リテ賣渡シタル鹽ニシテ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ

依リ交付金ヲ下付ス

第二十條 政府ハ命令ヲ以テ定メタル數量以上ニ非サレハ鹽ノ賣渡ヲ爲サス

第二十一條 鹽賣業者ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條 鹽製造者及鹽賣業者ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載ス

ヘシ

第二十三條 當該官吏ハ探鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入り鹹水、鹽、

器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十八條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

二 許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者

三 情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條 鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル者ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條 鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條 前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスレテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十條ニ違反シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 鹽買業者第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條 鹽製造者又ハ鹽買業者其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ忘リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十四條 政府ヨリ賣渡ササル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十六條 鹽製造者、鹽買業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 鹽製造者又ハ鹽買業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第二十八條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣買業者其ノ業務ヲ廢止スルモ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

第四十條 本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ仕拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

附則

第四十一條 本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行セス

第四十三條 本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條 本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所有シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ政府ニ申告スヘシ申告ヲ怠リ又ハ不正ノ

申告ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ニ對スル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス

納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十五條 本法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條 本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

●煙草賣捌規則

(明治三十八年二月廿日
大藏省令第四號)

明治三十七年大藏省令第十三號煙草賣捌規則左ノ通改メ明治三十八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス
煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス
政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘ

煙草元賣捌人ハ他ノ煙草元賣捌人ト製造煙草ヲ賣買スルコトヲ得

第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ煙草專賣局長之ヲ指定ス

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラントスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

- 一 煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者
- 二 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者
- 三 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定タルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者
- 四 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者
- 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

六 公權剝奪若ハ停止中ノ者

七 履行期日ヲ過キ仍ホ製造煙草ノ買入代金ヲ完済セサル者

前項第一號第二號及第七號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

會社ノ場合ニ於テハ前二項各號ノ事實ノ有無ハ會社又ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役又ハ監査役ニ付之ヲ定ム

第四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ハ五箇年以内ニ於テ煙草專賣局長ノ指定シタル期間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人ハ煙草專賣局長ニ申告シ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

第五條 煙草元賣捌人組合契約ヲ締結シテ其ノ業務ヲ營メントスルトキハ其ノ旨煙草專賣局長ニ申告スヘシ

煙草元賣捌人會社ヲ組織シ其ノ業務ヲ營メントスルトキハ會社設立前第二號書式ニ依リ煙草專賣局長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立シ第一號書式ニ依リ煙草專賣局長ニ申請シタルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得此場合ニ於テハ會社ヲ組織シタル煙草元賣捌人ノ指定ハ當然消滅ス

前二項ノ規定ニ依リ煙草元賣捌人ノ指定セラレタル會社ハ其ノ會社ヲ組織シタル前ノ煙草元賣捌人ノ所有スル製造煙草ヲ引受クルモノトス

第六條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ廢業ノ日ヨリ

三十日以前ニ其ノ旨ヲ煙草專賣局長ニ申告スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テ煙草專賣局長ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但

シ第三號ノ規定ハ煙草小賣人ニハ之ヲ適用セス

一 本規則ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ

二 煙草元賣捌人ニ在リテハ第三條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ煙草小賣人ニ在

リテハ第三條第一項第一號第二號又ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 政府ヨリノ煙草買受代金一箇年五千圓未滿ナルトキ

會社カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號第二號ノ事實ノ有

無ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役又ハ監査役ニ付之ヲ定ム

第八條 煙草元賣捌人ノ買受クル製造煙草ノ代金ハ政府ノ定メタル價格ニ對シ一定ノ割引歩合ニ

依リ之ヲ定ム

第九條 煙草元賣捌人、製造煙草ヲ買受ケントスルトキハ第三號書式ニ依リ毎月五日迄ニ翌月分

ノ製造煙草買受申込書ヲ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工

場又ハ煙草藏置所ニ差出スヘシ

第十條 政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓ニ達セサル者ハ其ノ金額ヲ納付シタル後ニ

非サレハ現品ノ引渡ヲ受クルコトヲ得ス

政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券

地方債證券若ハ政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券若ハ債券ヲ提供シ代金ノ延納ヲ請

求スルコトヲ得

常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ有價證券ヲ豫メ提供シ置クトキハ其

ノ證券ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金五百圓ヲ下ラサ

ルコトヲ要ス

前二項ノ有價證券ノ價格ハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算シ

第三項ノ場合ニ於テハ毎年四月之ヲ改算ス

代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第二項第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ二箇月以内ニ之ヲ完納スヘシ

第十一條 煙草元賣捌人カ買受ケタル製造煙草ハ煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又

ハ煙草藏置所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル

マテノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草元賣捌人ノ營業所カ煙草販

賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在ルトキハ

其ノ運搬費ヲ支給セス

煙草專賣局長ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テハ其ノ製

造煙草ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同クスルコトヲ得ス

第十三條 煙草元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所ニ限ルモノトス但シ既ニ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人ハ此限ニ在ラズ

第十四條 煙草元賣捌人ハ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クルニ非レハ其ノ營業所ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十五條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區別ヲ設クヘシ

第十六條 製造煙草ノ價格ヲ引下ケタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ舊價格ニテ買受ケ變更價格ノ適用期日ニ至ル迄所有シタル製造煙草ノ買受代金ト變更價格ニ基キ計算シタル金額トノ差額ノ拂戻ヲ變更價格ノ適用期日後十五日以内ニ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ請求シタルコトヲ得

第十七條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ種類、名稱、包裹別、數量ヲ證明スルニ足ル書類及拂戻金計算書ヲ其ノ煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ差出スヘシ

第十八條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ之レカ引替ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ煙草元賣捌人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ製造煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草販賣所煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ現品ヲ差出スヘシ

場ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十九條 煙草小賣人第二十二條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第二十四條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ翌月五日マテニ第六號書式ノ製造煙草受拂月計表ヲ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ差出スヘシ

第二十一條 煙草元賣捌人引續キ指定セラレタルトキハ現存スル製造煙草ハ當然之ヲ引繼クモノトス

煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ之レカ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ製造煙草ノ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ

拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第二十一條 煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表ヲ掲クヘシ

第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ買受先ニ之レカ引替ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ煙草小賣人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ製造煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ買受先ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第二十三條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受先、買受月日其ノ種類、名稱、數量、代金ヲ記載スヘシ

第二十四條 煙草小賣人引續キ指定セラレタルトキハ現存スル製造煙草ハ當然之ヲ引繼クモノトス

煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消セラレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ其ノ買受先ニ之レカ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ

第二十五條 本規則中煙草專賣局長ニ差出スヘキ書類ハ所管業煙草收納所ヲ經山スヘシ
第一號書式

煙草元賣捌人(又ハ煙草小賣人)指定申請書

一從來營業ノ種類

明治 年 月 日ヨリ 年 月 日迄何々業ヲ營ム

一兼業ノ種類

何々業

一營業所位置

府縣 郡市 町村 字 番地

一前年分所得額

、、、圓

右之通ニ付煙草元賣捌人(又ハ煙草小賣人)ニ指定相成度申請候也

年 月 日

住 所

氏 名 印

生 年 月 日

煙草專賣局長宛

備考

一 煙草小賣人ノ指定申請ニ付テハ所得額ノ記載ヲ要セス

二 會社ノ指定申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニ會社名ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印シ且定款ヲ添付スヘシ

三 無能力者ノ指定申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ
第二號書式

會社組織許可申請書

一 會社豫定ノ定款

一 會社組織セントスル各煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケタル年月日及其ノ營業期間

私共會社ヲ組織シ煙草元賣捌營業仕度候條許可相成申請候也

年月日

煙草元賣捌人從來ノ營業所

氏 名 印

生 年 月 日

同

同

同

煙草專賣局長宛

第三號書式

指定番號
何月分製造煙草買受申込書

口付又ハ何々

年月日

營業所所在地

煙草元賣捌人

氏 名 印

煙草販賣所(煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草蔵置所)宛

名	種	一箇ノ數量	箇	數
計				

備考

本書ハ口付、兩切、葉卷、刻煙草各別ニ調製スヘシ(以下書式省略)

● 鑛業法

(明治三十八年三月七日)
法律第四十五號

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、探掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
- 第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、銻鑛、銻鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鐵、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 未タ掘探セザル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス
- 第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及探掘權ヲ謂フ
- 鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘探シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重復シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル
- 第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス
- 第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス
- 本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
- 第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス
- 代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已チ得ヤル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地帶第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、隄塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムトコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準

用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スルコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督官長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督官長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複ス

ル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認めタルトキハ之ヲ許可セス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認めタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認めタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條

試掘出願地又ハ探掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用

セス

試掘出願地探掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ探掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ探掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ探掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リクルモノト看做ス但シ前條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ探掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セス

第三十五條 探掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接スル他人ノ鑛區ニ掘進スルノ必要アルトキハ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ經テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得但シ鄰接鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキ

ハ農商務大臣ハ探掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ
第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業
權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商
務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登録ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ着手セス若ハ一箇年
以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラズシテ探掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消
スコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣
ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 探掘權取消ノ登録アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ
抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ探掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第
三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル探掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

探掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト
看做ス
競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ排濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬

ス

競買人ハ探掘權取消ノ登録アリタル時ニ於テ探掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ探掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更
シタルトキ亦同シ

探掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得
ス

第四十六條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ
複本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スル
コトヲ得ス

第四十九條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ
出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鑛業上急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得
一 鑛鑽孔又ハ坑口ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヒタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、橋樑其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ

一 建設物及工作ノ保安

二 生命及衛生ノ保護

三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

七十二條 鑛業上危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 農商務大臣ハ探掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスンテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及銅鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ十錢、採掘ニ付テハ四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登録ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登録ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間満了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴願訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セシメタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第一百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第一百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能

力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第四百五條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

第一百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第一百八條 鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登録ト看做ス

第一百九條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル探掘ノ特許ハ探掘權ノ登録ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第一百十條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ探掘區域ハ探掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ探掘權ノ登録ヲ得タルモノト看做ス

第一百十一條 鑛業條例ニ依ル探掘權ノ書入ノ登録ハ抵當權ノ登録ト看做ス

第一百十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ探掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ

適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第一百十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限り之ヲ適用セス

第一百十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一百十七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第一百十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ探掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第一百十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物探掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘採區域ニ限り第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ掘採者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

●實用新案法

(明治三十八年二月十五日)
法律第二十一號

第一章 總則

第一條 工業上ノ物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ考案ヲ爲シタル者又ハ之ヲ承繼シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クコトヲ得
左ノ各號ニ該當セサルモノハ新規ナルモノト看做ス

一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公ニ用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ公刊物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第二條 左ニ掲クル實用新案ハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章又ハ之ニ類似スルモノ

一 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條 實用新案ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ實用新案權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定メ特許局長ニ届出ラハシ
前項ノ代理人ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲スヘキ手續及實用新案ニ關スル民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第四條 特許局長ハ實用新案ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

ヲ得

第五條 特許代理業者ニ非サレハ實用新案ニ關スル代理ヲ常業トスルコトヲ得ス

第六條 實用新案ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲ササルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ出願又ハ請求ヲ無効ト爲スコトヲ得

第七條 本法ニ依リ特許局ニ於テ爲ス書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 實用新案ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 實用新案權

第九條 實用新案權ハ實用新案ノ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ製作、販賣、擴布又ハ使用スル權利ヲ專有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ三箇年トス
前項ノ期間ハ三箇年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 實用新案權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十二條 實用新案權存續期間ノ延長ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受クルニ非サレハ其ノ效ヲ生セス

實用新案權ノ移轉又ハ買入ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 無効ノ審判確定シタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ

ハ實用新案權ハ初メヨリ存立セサルモノト看做ス

實用新案權者正當ノ專山ナクシテ六箇月以上第三條ノ手續ヲ怠リタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ以後效力ヲ失フ

第十四條 登録實用新案カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル許特發明、登録意匠又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサルトキハ其ノ發明特許權者、意匠權者又ハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ實施スルコトヲ得

特許發明又ハ登録意匠カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサルトキハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ實施スルコトヲ得

第十五條 實用新案權者ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ登録實用新案ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ニシテ特許局長ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルトキハ爾後其ノ實用新案權ヲ取得シタル者又ハ其ノ實用新案權ニ付質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ効力ヲ生ス

第十六條 實用新案權者又ハ實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ハ其ノ登録實用新案ニ係ル物品ニ登録標記ヲ附スヘシ物品ノ性質ニ依リ之ニ標記ヲ附スルコト能ハサルトキハ其ノ包装上ニ之ヲ附スヘシ

標記ヲ附スルコトヲ怠リタル爲登録實用新案品ナルコトヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 出願、審査及登録

第十七條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ願書ニ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ差出スヘシ

特許局長ハ必要ト認ムルトキハ出願人ニ解説書、圖面、見本又ハ雛形ノ提出ヲ命スルコトヲ得第十八條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ非サレハ登録ヲ受クルノ權利ヲ有セス但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ各出願者協議シテ權利者ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第十九條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ヨリ於テ出願シタルモノト看做ス

第二十條 政府又ハ道府縣ノ開設シタル博覽會又ハ共進會ニ出品スル物品ニ付其ノ出品前豫メ之ヲ特許局長ニ届出テ博覽會又ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ實用新案ノ登録ヲ出願スルトキハ先ノ届出ノ日ニ於テ登録ヲ出願シタルモノト看做ス

工業所有權ニ付帝國ト相互保護ニ關スル條約アル國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル登録願保護ノ期間ハ帝國內ニ於テモ有效トス

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

第二十二條 特許局審査官ニ於テ査定ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十三條 特許局審査官ハ第二條及第十八條ノ規定ニ該當スルヤ否ニ付審査スヘシ但シ第一條ノ規定ニ該當セザルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絕ノ査定ヲ爲スヘシ

第二十四條 登録拒絕ノ査定ヲ受ケタル者之ニ不服ナルトキハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ前審査ニ關與セザル特許審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

前條但書ニ依ル査定ニ對シ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ特許局審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第二十五條 第三十八條及第三十九條ノ規定ハ審査ニ之ヲ準用ス

第二十六條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ請求スルトキハ特許局長ハ其ノ實用新案ヲ登録シ登録證ヲ下付スヘシ

第二十七條 實用新案ノ登録ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金十五圓ヲ納ムヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金三十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條 實用新案ニ關スル登録ハ實用新案原簿ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 登録實用新案ニ關スル書類ノ謄本、登録證ノ模本、證明、圖面ノ複製又ハ書製ノ圖一覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ説明シ之ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行スヘシ
實用新案公報ニハ登録實用新案ニ關スル重要ナル事項ヲ掲載スヘシ

第四章 審判及出訴

第三十一條 登録實用新案カ第一條第二條又ハ第十八條ノ規定ニ違フモノナルコトヲ發見シタル者ハ特許局ニ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 登録實用新案カ互ニ撞著スルヤ否又ハ登録實用新案ト實用新案ノ登録ヲ受ケザル物品ト撞著スルヤ否ニ付利害關係人ハ特許局ニ撞著ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條 特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ指定シ請求人又ハ被請求人ヲシテ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第三十五條 審判ハ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依リ之ヲ行ヒ審判官中一人ヲ審判長トス

第三十六條 審判長ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 審判請求人又ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書又ハ辯駁書ヲ差出サス其ノ他指定ノ手續ヲ爲サス又ハ口頭審理期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ直ニ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十八條 審判ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲シ且當事者ノ申立サル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第三十九條 證據調ハ區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第四十條 審判ニ關スル費用ノ負擔ハ終局審決ニ依リ之ヲ定ム

第四十一條 審決アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第四十二條 終局審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルニ限り審決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

第四十三條 大審院ニ於テ出訴ヲ理由アリトスルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲

事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ
大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シテ特許局ヲ覆束スル

モノトス

第四十四條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付實用新案權ニ關シ争アル場合ニ於テ裁判所ハ第三十一條又

ハ第三十二條ノ請求ニ依ル審決ノ確定ニ至ル迄其ノ訴訟ヲ中止スルコトヲ得

第四十五條 審判及出訴ノ費用額ニ關シテハ民事訴訟費用法ヲ準用シ特許局長請求ニ依リ之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作リタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第五章 罰 則

第四十六條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ偽造、模造シ又ハ偽造品、模造品ヲ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

本條ノ犯罪ハ實用新案權者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十七條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ偽造品、模造品、輸入品ハ之ヲ沒收シ實用新案權者ニ給付ス
第四十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ包装上ニ實用新案登録ノ標記ヲ附シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ實用新案登録

品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十九條 證人、鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ對シ偽證又ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シシメタル者ハ罰前項ニ同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第五十條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出コ
應セズ又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第五十一條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 左ノ場合ニ於テハ發明特許又ハ意匠登錄ノ出願ヲ爲シタル日ヲ以テ第十四條及第十八條ノ適用上實用新案ノ登録出願ノ日ト看做ス

一 本法施行前一箇年以内ニ於テ發明特許又ハ意匠登錄ヲ出願シ本法施行前特許スヘカラス又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

二 本法施行前發明特許又ハ意匠登錄ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許スヘカラス又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ査定ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

●實用新案ニ關スル手数料

(明治三十八年三月十三日 勅令第五十三號)

第一條 實用新案ニ關シ出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ニ掲ケル所ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ

- 一 登録出願 每一件 金二圓
- 二 再審査請求 每一件 金三圓
- 三 審判請求 每一件 金十二圓
- 四 費用額決定ノ請求 每一件 金五十錢
- 五 費用額決定ノ執行力アル正本ノ請求 每一件 金五十錢
- 六 書類謄本ノ請求 謄本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢字數一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢百語ニ滿タサルモノ亦同シ

七 登録證複本ノ請求 每一件 金一圓

八 證明ノ請求 每一件 金五十錢

九 圖面調製ノ請求 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額

十 書類閱覽ノ請求 每一件 金十錢

十一 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件 金一圓

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●特許法

(明治三十二年三月法三六號公布)

百四

- 第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得
- 物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限リ其ノ發明ノ物品ヲ製作使用販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム
- 方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受タル者ニ限リ之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス
- 第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ス
- 一 飲食物、嗜好物
 - 二 醫藥又ハ其ノ調合法
 - 三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
 - 四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用テラレタルモノ但シ試驗ノ爲ニ二年以内公ニ知ラレタルモノハ此限ニアラス
- 第三條 特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス
- 第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

- 第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス
- 第六條 特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲セントスル者又ハ特許證主ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セザルトキハ帝國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ
- 前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス
- 第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登錄ヲ受クヘシ
- 代理業者ノ登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 前條ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ義務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得
- 第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ヲ基キテ發スル命令ノ定ムル期限内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲サザルトキハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス
- 第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヒ特許局長ニ出願スヘシ
- 特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ雛形若ハ見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得
- 第十二條 特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

百五

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス

特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス

第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者條約ニ定メタル期間内ニ同一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ効力ヲ有ス (三十五年二月法二號改)

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セン日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限り最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタルト同一ノ効力ヲ有ス

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國内ニ於テモ有効トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ニ認メタルトキ又ハ主務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル特許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受クヘシ

發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ申告スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認ムル報酬ヲ任拂フニ非ザラハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ十六條ノ場合ニ於テハ之カ爲處分ヲ停止セス

第十九條 特許證主ハ自己特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受タルコトヲ得

追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス

第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無効トス

- 一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
- 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
- 三 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト紙觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ不服ノ理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セザル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシ

審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徵シ

第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登錄ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ

圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルトキハ審査官之ヲ審査ス

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞着シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケザル物品若ハ方法ト撞着

スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル

爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申立ニ因

リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑托スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ

五人中ノ一人ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スルニ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコ

トヲ要ス

特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辨駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辨駁書ヲ差出サザルトキ又

ハ辯論期日ニ出頭セザルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ

審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキヨリ審決書到達ノ日ヨリ

六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ付テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國內ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セザル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモ之ヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ

三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カザルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ

前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス

特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條 特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納セシ特許料ハ是ヲ還附セズ但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未ダ其ノ納付期限ニ至ラザルモノニ限リ之ヲ還付ス

第四十一條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特別特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラザル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知リテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者

又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケザル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケザル物品ヲ販賣スル爲メ廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルコト紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條 特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知リ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノニ要償ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シテ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達吏ト準視ス

附 則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ其ノ特許ハ年限間此ノ法律ニ於テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

●特許法施行細則

(三十二年六月與會第十三號三十八年一月四日改正)

第一章 細 則

第一條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲ス者ハ一件毎ニ書面一通ヲ作り住所及ヒ差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但書類ノ膠本、圖面ノ調製、特許原簿其他ノ書類、雛形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其ノ員數ニ應スル副本ヲ添付スヘシ

第二條 本則ニ書式ノ定アル場合ニ在リテハ書面ハ其書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三條 書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其譯文ヲ添附スヘシ

第四條 特許出願後、特許ノ改訂若クハ分割ノ出願後又ハ特許後其出願若クハ特許ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其願書番號若クハ特許番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ

書面ヲ差出ストキハ之ニ審判番號ヲ記載スヘシ

第五條 (削除)

第六條

書留郵便ヲ以テ特許ニ關スル願書、請求書、特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書及
ト特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ差出期間ヲ定メタル書類ヲ特許局ニ差出シタルトキハ其差出日
時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム

第七條

書留郵便ヲ以テ前條ニ掲ケタル書類ヲ差出シタルトキハ其差出日時發送郵便局ヨリ交付
シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム

第八條

左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス
一 特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ
二 登録稅又ハ手数料ヲ納付セザルモノ
三 特許法若クハ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若クハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長
ノ定メタル期日若クハ期間ヲ過キタルモノ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若クハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不
明瞭若クハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但
出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ
特許願ニ、追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ書損及
ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求又ハ届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ

ト看做サス

書類ノ書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充
スルコトヲ得

第九條

特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者ハ其差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ訂
正、補充又ハ改造スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若クハ審
判ノ繫屬中ニ在ラサルモノハ此限ニ在ラス

審査中特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ、追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、
追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタ
ル事項ノ範圍内ニ於テ特許ノ請求範圍ヲ増減變更シ又ハ審査若クハ審判ノ繫屬中書損及ヒ之ニ
類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サ
ス

第十條

外國人又ハ外國法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在
リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及ヒ法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但帝國內
又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所
ヲ有スルコトヲ證明スル者ハ國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス

第十條ノ二

萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト發明ニ付キ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國
ノ臣民、人民又ハ法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國內又ハ萬國
工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スル

コトノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條ノ三 同時ニ數箇ノ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添付セザル書面ニハ其旨ヲ附記スルコトヲ得

第十條ノ四 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付キ特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 發明者ノ承繼人ヨリ其發明ノ特許以前特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其承繼人タルコトヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但其事由ヲ附記シ被承繼人ト連署スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ

但法人ノ代表者其法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 特許法第六條ノ規定ニ依リ代理人ヲ定メタルトキハ其旨ヲ届出ツヘシ
出願ノ際届出タル前項代理人ノ代理權ハ別段ノ明記ナキトキハ特許後尙ホ存續スルモノト推定ス

第十四條 特許法第七條ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ代理人ニ通知スヘシ

第十五條 特許局長又ハ審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ請求ニ因リ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若クハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ變更スルコトヲ

得但相手方其他ノ關係人アル事件ノ期日若クハ期間變更ノ請求ニ對シテハ當事者合意ノ申立ニ因リ又ハ顯著ナル理由アリト認ムル場合ノ外之ヲ許可セス

第十五條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ニ關シテ特許局長又ハ審判長ノ命ニ依リ差出スヘキ圖面ノ調製ヲ特許局ニ請求シ成規ノ手数料ヲ納付シタルモノニ付テハ其手数料納付ヨリ特許局ニ於テ圖面ノ發送ヲ爲ス迄ノ期間ハ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間ニ之ヲ算入セス

第十六條 特許局ニ差出シタル雛形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケントスル者ハ其差出ノ際豫メ其旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其受取ノ手續ヲ爲スヘシ但雛形又ハ見本ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス

差出人前項ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

第十七條 數人共同シテ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキ又ハ特許ヲ共有スルトキハ代表者一人ヲ選定シテ其旨ヲ届出テ又ハ之ヲ書類ニ記載スヘシ其届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス

前項ノ代表者ハ處分行爲ヲ除ク外特許局ニ對シ全權ヲ有スルモノト看做ス

第十八條 特許法ニ依リ特許局ニ於テ爲スヘキ書類ノ送付ニシテ書留郵便ニ依ルモノハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 特許局ノ使丁ヲ以テ書類ノ送付ヲ爲ストキハ使丁ハ其書類ノ封皮ニ送付ノ日時ヲ記載シテ之ニ捺印スヘシ

書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ使丁ニ交付スヘシ
第十九條ノ二 第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ニ對スル送付ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタル
モノト看做ス

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ因リテ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許
局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其事由ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二
十日ヲ經過シタルトキハ其末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十一條 (削除)

第二十二條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者、特許證主又ハ其代理人若クハ代表
者カ其氏名、住所若クハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其代理人若クハ代表者ニ變更アリタルトキ
ハ遲滞ナク其旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

氏名又ハ印章變更ノ届書ニハ證明書ヲ添付スヘシ

第二十三條 特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書ニハ説明及ヒ圖面ヲ添付スヘシ

第二十四條 何人ト雖モ其利害關係ヲ説明スルトキハ特許ニ關スル事項ノ證明、書類、雛形若ク
ハ見本ノ閱覽又ハ特許證原本ノ下附ヲ請求スルコトヲ得但特許局長ニ於テ秘密ヲ要スルト認
ルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第二章 出願

第二十五條 特許法第十四條ノ規定ニ依ル特許願書ニハ最初出願ノ當時差出シタル願書、明細書
及ヒ圖面ノ原本ニシテ其出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ認證シタルモノ又ハ其出願ヲ爲シタル

國ノ政府ニ於テ發行シタル公報若クハ特許證ニシテ其出願ノ年月日、發行ノ明細書及ヒ圖面ヲ
掲載シタルモノヲ添付スヘシ

第二十六條 特許法第十五條第二項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ博覽會又ハ共進會ノ物品受領證ヲ
添付スヘシ

特許法第十五條第三項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ萬國博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ特許出願ノ
期間ヲ與ヘタル發明書ヲ添付スヘシ

第二十六條ノ二 特許法第二十六條ノ規定ニ依ル特許證ノ改訂又ハ分割ノ願書ニハ特許證ヲ添付
スヘシ

第六十七條ノ三第一項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十七條 特許ノ出願アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其番號、發明ノ名稱、出願人及ヒ
代理人ノ氏名並ニ願書差出ノ年月日等ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第二十七條ノ二 特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ハ願書ノ名義變更ヲ特許局
ニ請求スルコトヲ得

前項ニ因リ願書ノ名義變更アリタルトキハ其出願ニ關シ差出シタル請求書其他ノ書類ノ名義モ
變更アリタルモノト看做ス

第二十八條 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 發明ノ名稱

- 二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領
- 三 圖面ノ略解
- 四 發明ノ詳細ナル説明
- 五 特許ノ請求範圍

他ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付テノ出願ナルトキハ其發明ト原發明トノ關係ヲ發明ノ詳細ナル説明中ニ明記スヘシ

第二十九條 特許ノ請求範圍ハ發明ノ要部ニ限り之ヲ記載スヘシ

第三十條 圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ナルトキハ其發明ト原特許發明トノ關係ヲモ示スヘシ

第三十一條 雜形及ヒ見本ハ牢堅ナル材料ヲ用キ曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此製限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ雜形及ヒ見本ハ其原料ヲ用キ之ヲ作ルヘシ

物質ノ發明ニ付キ見本ヲ提出スルトキハ試驗用ニ供スルニ足ル分量及ヒ其成分ヲ差出スヘシ

第三十二條 雜形又ハ見本カ破損又ハ變化シ易キモノナルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

第三十三條 雜形又ハ見本ノ滅失、毀損ニ付テハ特許局ハ其責ニ任セス

第三十四條 特許出願ヲ分割セントスル者ハ其分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル新ナル出願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス

第三章 審査

第三十五條 (削除)

第三十六條 (削除)

第三十七條 (削除)

第三十八條 (削除)

第三十九條 再審査査定書ニハ前條第一號、第二號、第五號及ヒ第六號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

- 一 再審査請求人及ヒ關係人ノ氏名
- 二 不服理由ノ要領

第四十條 左ノ場合ニ於テハ發明抵觸ノ査定ヲ爲スヘカラス

- 一 特許ヲ與フヘカラサル他ノ理由ノ存スルトキ
- 二 出願人ニ於テ其發明ノ完成カ抵觸スヘキ發明ノ完成後ナルコトヲ自認シタルトキ
- 三 審査官ニ於テ其發明ノ完成カ明カニ抵觸スヘキ發明ノ完成後ナルコトヲ認ムルトキ

第四十一條 抵觸査定書又ハ發明完成ノ前後ニ關スル査定書ニハ第三十八條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

- 一 抵觸番號
- 二 抵觸スヘキ發明ノ願書又ハ特許ノ番號

三 牴觸スヘキ發明ノ名稱

四 牴觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許證主ノ氏名住所

五 牴觸スヘキ發明ノ要領又ハ關係人陳述ノ要領

第四十二條 發明牴觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ之ヲ關係人ニ通知シ三十日以内ニ其特明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

第四十三條 始末書ニハ牴觸番號及ヒ發明ノ完成ニ關スル事實ノ詳細ナル説明ヲ記載スヘシ

第四十四條 特許局長カ始末書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ

審査官カ答辯ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ關係人カ始末書又ハ答辯書ヲ訂正又ハ追加シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 始末書又ハ答辯書ニハ之ニ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物件ヲ添付スヘシ

第四十六條 特許證主カ指定ノ期間内ニ始末書又ハ答辯書ヲ差出ササルトキハ審査官ハ直ニ査定ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 牴觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四章 審判

第四十八條 審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所

二 審判事件ノ表示

三 請求ノ要旨及ヒ理由

第四十九條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 審判番號

二 請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所

三 審判事件ノ表示

四 答辯書ハ辯駁ノ要旨及ヒ理由

第五十條 審判ノ請求アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其番號、審判事件、當事者及ヒ代理人ノ氏名並ニ請求書差出ノ年月日等ヲ記載スヘシ

前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ當事者ニ通知スヘシ

第五十條ノ二 數人ノ所有ニ係ル一特許ニ付キ特許證主ニ對シ審判ヲ請求セントスルトキハ其各所有者ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ

第五十條ノ三 特許ニ付キ審判ノ請求アリタル後其特許カ他人ニ移轉スルモ審判ニ影響ヲ及ホスコトナシ前項ノ場合ニ於テ其移轉カ全部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ニ代ハリ當事者ト爲リ其移轉カ一部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ト共ニ當事者ト爲リ以後ノ手續ヲ續行スルコトヲ得但承繼カ相續ニ原因スルトキハ其承繼人ハ當然當事者ト爲ルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ其承繼及ヒ相手方ノ同意ヲ證スル書面ヲ添ヘ其旨ヲ審判長ニ届出ツヘシ但前項但書ノ場合ニ於テハ相手方ノ同意ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス

第五十條ノ四 審判長必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ訊問書ヲ發シ相當ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長カ前項ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ關係人カ任意ニ差出シタル答辯書、駁辯書其他ノ申立書ニシテ審判長カ必要ト認メタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ相手方ニ對シ答辯書又ハ意見書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五十條ノ五 第四十五條ノ規定ハ審判請求書、答辯書、辯駁書、意見書其他ノ申立書及ヒ其訂正又ハ追加ニ之ヲ準用ス

第五十條ノ六 他人ノ間ニ成立セル審判ノ結果ニ因リ權利上利害關係ヲ有スル者ハ其審判ノ終結スル迄其一方ヲ補助スル爲其審判ニ參加セシムルコトヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

參加人ハ其參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限ハ其主タル請求人又ハ被請求人ノ爲ニ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ施用シ其他審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但其補助スル當事者ノ行爲ト牴觸スルモノハ其效ナシ

第五十條ノ七 參加ノ請求ヲ爲サントスル者ハ當事者、審判事件、利害關係及ヒ參加ノ申立ヲ記載シタル請求書ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第五十條ノ八 請求人又ハ被請求人參加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否ヲ決ス

第五十條ノ九 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判ニ付キ其審理若クハ審決ヲ併合シ

又ハ之ヲ分離スルコトヲ得

第五十一條 審判ノ請求人カ其請求ヲ取消シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第五十二條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第五十三條 口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第五十四條 口頭審判ニ於テハ調書ヲ作り審判長及ヒ之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ

第五十五條 審決アリタルトキハ特許局長ハ其審決書ノ原本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五十六條 審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

一 審判番號

二 當時者ノ氏名、住所

三 審判事件ノ表示

四 當時者陳述ノ要領

五 審決ノ主文及ヒ外由

六 審決ノ年月日

第五十七條 審判官カ査定ヲ不當ナリト審決シタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 審判ニ關スル費用ノ負擔又ハ其費用額ノ決定ヲ受クントスル者ハ申請書ヲ作り費用

計算書其他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長ハ必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第五十九條 前條ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其決定書ノ原本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五章 特許

第六十條 審査官カ特許ヲ與フヘシト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登録シ且其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第六十一條 特許法第十七條第一項ニ定メタル査定アリタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ相當ノ期間ヲ定メテ原特許證主ノ承諾書ヲ差出サシムヘシ

出願人カ特許證主ノ承諾書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登録シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

原特許證主承諾ヲ與ヘサル場合ニ於テ特許局長カ出願人ニ特許ヲ與ヘタルトキハ特許原簿ニ登録シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ原特許證主ニ通知スヘシ

第六十二條 原特許證主ニ支拂フヘキ報酬ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作り報酬ノ金額及ヒ其計算ニ關スル書類ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ特許局長副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期間ヲ定メテ其意見ヲ聽クコトヲ得

第六十三條 特許局長カ報酬ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第六十四條 審査官カ特許證ノ改訂又ハ分割ヲ許可スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ登録シ且其査定書ヲ出願人ニ送付シ改訂特許證又ハ分割特許證ヲ下付スヘシ

第六十五條 特許證ハ第六十七條ノ三第二項ニ依ル下付及ヒ再下付ノ場合ヲ除クノ外第九號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第六十六條 相續ニ因リテ特許ヲ取消シタル者ハ其證明書ヲ特許局ニ差出シ特許證ノ書換ヲ申請スヘシ

第六十七條 特許法第四條第二項ニ定メタル登録ヲ受ケントスル者ハ請求書ヲ作り登録原因ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ但特許ノ共有者又ハ制限附讓受人ニシテ特許證ヲ所持セサル者ノ承繼人ハ其被承繼人ノ下付ヲ受ケタル特許證原本ヲ差出シテ特許證ノ差出ニ代ユルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ登録原因ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ外登録原因ヲ證スル書面ノ原本ニシテ特許證主又ハ請求人ノ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタルモノ一通ヲ差出スヘシ

第一項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登録シタル後登録事項ヲ特許證又ハ特許證原本ニ記載シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第六十七條ノ二 特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ニシテ其特許以前願書ノ名義變更ノ請求ヲ爲サザリシ者又ハ相續、讓渡及ヒ共有以外ノ原因ニ因リ特許ヲ承繼シタル者ハ特許證ノ名義變更ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ヲ作り承繼ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ但特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ノ差出スヘキ承繼ヲ證スル書面ハ確定日附アル私署證書又ハ公正證書ヲ用ユヘシ

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ請求ニ之ヲ準用ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ請求ニ之ヲ準用ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ請求ニ之ヲ準用ス

第六十七條ノ三 前三條ノ場合ニ於テ特許證ヲ差出スコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ證明シ
テ特許證ノ書換、登録又ハ特許證ノ名義變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得
前項ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ調製シ
テ之ヲ請求人ニ下付スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊特許證ハ無効トス此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ官報及ヒ特
許公報ヲ以テ公告スヘシ

第六十七條ノ四 裁判所ニ於テ特許ニ對スル差押、假差押又ハ假處分アリタルトキハ當事者ハ特
許原簿ニ其登録ヲ請求スルコトヲ得其登録後變更若クハ消滅アリタル場合亦同シ

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ニ登録原因ヲ證スル書面及ヒ其謄本ニシテ請求人ノ署名
捺印シテ原本ト書送ナキコトヲ認證シタルモノヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登録シ登録原因ヲ證スル書面ニ其旨ヲ記
入シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第六十八條 特許法第十六條ノ規定ニ依リ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタ
ル特許ヲ制限シ又ハ取消ストキハ其理由ヲ出願人又ハ特許主ニ通知スヘシ

第六十九條 特許原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 特許ノ番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 特許證主ノ氏名、住所外國人又ハ外國法人ニ在リテハ并ニ其國籍

四 特許ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限

五 特許ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ名アルトキハ各共有者ノ持分

六 特許ノ質入ニ付テハ債權額其利息辨濟期質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日

七 特許證ノ名義變更ニ付テハ其事由

八 特許ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若クハ消滅ニ付テハ其事由

九 第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル特許證主ノ代表者

十 帝國內ニ住所ヲ有セサル特許證主ノ代理人ノ氏名、住所

十一 特許ノ制限ニ付テハ其事由及ヒ制限ノ範圍

十二 利用發明特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許證主ノ承諾ノ有無

十三 追加特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許登録ノ年月日

十四 特許法第二十五條ノ規定ニ依ル特許ニ付テハ前特許登録ノ年月日

十五 特許證ノ改訂又ハ分割ニ付テハ其事由

十六 特許ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十七 特許ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十八 特許證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十九 特許證原本ノ下付ニ付テハ其事由年月日及ヒ請求人ノ氏名、住所

二十 第六十七條ノ三第二項ニ依ル特許證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

二十一 登録ノ年月日

第七十條 特許原簿ニ登録シタル事項ニ變更ヲ為シタル事項カ消滅シタルトキハ其變更又ハ消
滅ノ登録ヲ爲スヘシ

第七十一條 特許無効ノ審決カ確定シタルハ、又ハ特許ノ消滅シタルトキハ特許證主及ヒ特許證
 複本ノ所持者ハ遲滞ナク其特許證及ヒ特許證複本ヲ返納スヘシ

第七十二條 特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第七十三條 特許證主カ特許料ヲ納メタルトキハ特許局長ハ領收證ヲ交附スヘシ

第七十四條 特許證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其承繼人ハ其事實ヲ疏明シテ特許
 證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ二 圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求ノ際雛形、見本又ハ下圖ヲ特許局ニ差出スヘシ
 但特許局ニ存スル雛形、見本又ハ圖面ニ依リ調製スルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第七十四條ノ三 特許證複本、第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付スル特許證ニハ
 第六十九條第一號乃至第三號及ヒ第六號、第十一號、第十三號、第十五號、第十八號、第十九
 號又ハ第二十號ニ規定シタル事項竝ニ特許證ノ種類、特許年限、讓渡ニ附シタル制限アルトキ
 ハ其制限、共有者ノ持分ノ定メアルトキハ其持分ヲ記載シ明細書及ヒ必要ノ圖面ヲ添附シ其利
 用發明特許證ニ係ルトキハ尙原特許ノ番號、原發明ノ名稱ヲ記載シ其特許證複本ニ付テハ尙ホ
 其複本ナルコト及ヒ其番號ヲ記載スヘシ

附 則

第七十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式 第一號

特許願

收入印紙

一發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日

一發明者ノ氏名住所及職業

本項ハ出願人カ發
明者ナルトキハ記
載スルヲ要セス

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方
法)ニ付キ特許相受度(特許法第十四條又ハ

第十五條ニ定メタル出願ナルトキハ別紙證
明書領收證相添)此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所職業
氏 名 印

年月日

特許局長氏名殿

第二號

利用發明特許願

收入印紙

一發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日

一發明者ノ氏名住所及職業

本項ハ出願人カ發
明者ナルトキハ記
載スルヲ要セス

一原特許ノ番號

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方
法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所職業
氏 名 印

年月日

特許局長氏名殿

第三號

追加特許願

收入印紙

第五號

特許證分割願

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及ヒ住所職業
氏 名 印

私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證ノ
改訂相受度此段相願候也

收入印紙

一發明ノ名稱

一特許ノ番號

特許證改訂願

第四號

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及ヒ住所職業
氏 名 印

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方
法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本項ハ出願人カ發
明者ナルトキハ記
載スルヲ要セス

一發明者ノ氏名住所及職業

一原特許ノ番號

收入
印紙

一 發明ノ名稱
一 特許ノ番號
私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證ノ
證分割相受度此段相願候也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所職業
氏 名 印
特許局長氏名殿

第六號

發明品出品屆

收入
印紙

一 發明ノ名稱
二 發明者ノ氏名
私(私共)儀別紙說明書(圖面)ニ記載スル發
明ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何
府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)ニ出
品可致候ニ付特許法第十五條ノ規定ニ依
此段及御屆候也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

第九號

利用發明特許證

一 發明ノ名稱
前記發明ハ特許局審査官ニ於テ特許ヲ與フ
ヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄
シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

第十號

追加特許證

一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許發
明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官ニ
於テ利用發明特許ヲ與フヘキモノト査定シ
タリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付
スルモノ也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

第十一號

一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許

第七號

登錄請求書

一 特許證主ノ氏名
一 特許ノ番號
私(私共)儀何某ヨリ前記特許(持分)ヲ受
(質取)候ニ付登錄相成度別紙契約書(遺言
書)相添此段及請求候也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印

第八號

特許局長氏名殿

登錄請求證

收入
印紙

一 特許證主ノ氏名
一 特許ノ番號
私(私共)儀前記特許ヲ共有ト致候ニ付登錄
相成度別紙契約書相添此段及請求候也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
共有者
特許局長氏名殿

發明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官
ニ於テ追加特許ヲ與フヘキモノト査定シタ
リ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付ス
ルモノ也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

第十二號

改訂特許證

一 發明ノ名稱
前記發明ニ對シテ特許局審査官ニ於テ明治何
年何月何日付第何號特許證ノ改訂ヲ許可ス
ヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付
スルモノ也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

第十三號

分割特許證

一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許
證ノ分割ニ係ルモノニシテ特許局審査官ニ
於テ分割特許ヲ許可スヘキモノト査定シタ
リ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日
本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名 印
特許局長氏名殿

百二十三

●酒造組合法

(明治三十七年十二月三十一日法律第八號)

第一條 本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ
第二條 酒類製造者ハ稅務署管内ナ一區域トシ酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ從ヒ
特別ノ區域ニ依ルコトヲ得

第三條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲ス

第四條 酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ
得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種毎ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコ
トヲ要ス

第五條 酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組
合員ト爲ル

第六條 酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ
得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘ
シ

第七條 酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規
定ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選
ヲ命ジ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

附則

第十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 酒造稅法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設立シタルモノト
看做ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルト
キハ同區域内ニ於テ未タ組合ニ加入セザル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト
爲ル

●酒造組合法施行規則

(明治三十七年十二月三十一日勅令第八號)

百二十六

- 第一條 酒造組合法ニ依リ酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ同業者ニ於テ其ノ組合ノ區域及酒類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ
- 第二條 酒造組合設立發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ組合ノ區域内ニ於ケル同業者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ
 - 一 組合ノ名稱、區域及酒類
 - 二 組合員タルヘキ者ノ數但シ各種酒類毎ニ之ヲ區別スヘシ
 - 三 組合事業ノ概目
 - 四 創立費及經費ノ概算
 - 五 同意表示ノ形式及期間
- 第三條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滯ナク創立總會ヲ召集スヘシ
創立總會ヲ召集スルトキハ少クモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ
前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ
- 第四條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス但シ二種以上ノ酒類製造者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種酒類製造者毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

- 第五條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ表決權ヲ行フコトヲ得
- 第六條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款及創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ
- 第七條 創立總會ニ於テハ其ノ議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選舉シ又ハ經費ノ豫算並徵收方法ヲ議定スルコトヲ得
- 第八條 發起人發起ノ認可アリタル後六箇月以内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セザルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第九條 酒造組合聯合會ノ創立總會ハ其ノ聯合會ヲ組織セムトスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第十條 酒造組合聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ酒造組合聯合會設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ
前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ
- 第十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ
- 第十二條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ酒造組合聯合會ノ定款ニハ第十二號及第十三號ノ記載ヲ要セス
 - 一 名稱
 - 二 區域

百三十七

三 酒類

四 事務所ノ所在地

五 事業

六 役員ノ權限及其ノ選任、解任ニ關スル規定

七 總會召集ノ方法

八 會議ノ方法

九 經費ノ負擔及其ノ徵收方法

十 定款違反者處分ノ方法

十一 定款ノ變更ニ關スル手續

十二 酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法

十三 酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル處分方法

十四 加入及脱退ニ關スル規定

十五 解散ニ關スル規定

定款ニハ前項各號ニ掲グルモノノ外酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得

第十三條 定款ノ變更ヲ議定シタルトキハ認可申請書ニ其ノ變更シタル定款及變更ノ理由書ヲ添附シ地方長官ニ提出スヘシ

第十四條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長又ハ聯合會長

一名

評議員

若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長ハ組合員中ヨリ、聯合會長ハ聯合會ヲ組織スル酒造組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ履歴書ヲ添附スヘシ

第十五條 組合長又ハ聯合會長ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヲ代表シ之ヲ統轄ス

組合長又ハ聯合會長故障アルトキハ定款ノ規定ニ依リ他ノ役員之ヲ代理ス評議員ハ組合長又ハ聯合會長ノ諮詢ニ應ジ又ハ定款ノ規定ニ依リ組合又ハ聯合會ノ事務ノ一部ヲ分掌ス

第十六條 組合長又ハ聯合會長ノ解任アリタルトキ及他ノ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十七條 組合又ハ組合聯合會ニ於テ定款ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ都度地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ組合員ノ製品ヲ検査スルコトヲ得

酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收方法ハ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ每年少クトモ一回酒造組合ニ在リテハ組合員ニ、酒造組合聯合會ニ在

リテハ其ノ組合ニ公示シ且地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第二十條 役員ノ闕ケタル場合ニ於テ補闕選舉ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第二十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散ヲ爲サルトスルトキハ組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散シタルトキハ組合長又ハ聯合會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第二十四條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ改任スルコトヲ得

第二十五條 清算終了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十六條 酒造組合法第十條ノ處分ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條 本令中酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ關シ地方長官ニ屬スル事務ニシテ二府縣以上ニ渉ルモノハ大藏大臣之ヲ行フ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前酒造組合規則ニ依リ爲シタル酒造組合設置ノ手續ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ定款ニ記載スヘキ事項ニシテ組合契約書ニ記載ナキモノハ之ヲ議定シ本令施行後三箇月以内ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

●酒母、醪及麴取締法

(明治三十七年十二月三十一日法律第七號)

第一條 本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

第二條 酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第四條 收稅官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ其原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ検査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場内ニ酒母、醪、麴、製造用容器、器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ検査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條 醪ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外

へ移出スルコトヲ得

第八條 酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ買入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外へ移出スルコトヲ得ス

第九條 免許ヲ受ケスシテ酒母、醪若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母、醪ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

第十條 酒母、醪又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレトシタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請買者酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十四條

酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請買者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ請買者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ第十八條 第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附則

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醪製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 沖繩縣及東京府下小笠原島伊豆七島ニハ本法ヲ施行セス

●酒母、醱及麴取締法施行規則

(明治三十七年十二月三十一日勅令第七號)

第一條 酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、醱又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒母、醱及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戸主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 酒母、醱又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トチ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醱又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ

標記スルコトヲ得

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ

酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ相續ノ場合ヲ除クノ外酒母、醱又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醱又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

第八條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條 收稅官吏ハ隨時酒母、醱又ハ麴ノ製造場若ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醱又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ

施子ムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條 收税官吏カ必要ト認めテ酒母、醪、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ譲渡、買入、消費又ハ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ検査ヲ受クヘ

第十二條 酒母ヲ買入レムトスル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

第十三條 酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非ヤレハ酒母ヲ譲渡スコトヲ得ス

酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收税官吏ニ證明スヘシ

第十四條 酒母ヲ麴ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條 酒母、醪又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル酒母、醪又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日
- 四 酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日
- 五 使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醪若ハ麴ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條 麴請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル麴ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル麴ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十七條 收税官吏カ必要ト認めテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 酒母、醪及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ノ規定ヲ準用ス

附 則

一 平令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒母、醪及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

●茶業組合規則

(明治二十年十二月)
農商務省令第四號

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
但十七年三月第四號達茶業組合準則ハ廢止ス

第一章 總 則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製造ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス
(三十二年農商務省令第十九號ヲ以テ全條改正)

自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ナシ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ茶業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トヲ區別シテ組合ヲ設ケルノ必要アルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何(府縣)何(郡區)茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場合ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設ケヘシ
(二十三年農商務省令第一三號ヲ以テ本條中改正)

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議方ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
(二十五年農商務省令第一五號ヲ以テ本條中追加)

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設ケルノ必要アルトキハ其規約ヲ添へ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
(二十三年農商務省令第一二號ヲ以テ但書追加)

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス
(二十三年農商務省令第一二號ヲ以テ本條中追加)

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責任ヲ任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但組長ヲ選任又ハ改選シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタルトキハ

其都度届出ツヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ但書改正)

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 (二十二年農商務省令第五號ヲ以テ削除)

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及ヒ中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議議員ニ於テ全國組合員中定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農商務大臣ノ認定ヲ請フヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ改正)

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖トモ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第二十四條 役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セサルトキハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ追加以下順次繰下)

第四章 會議

第二十五條 會議ヲ分チ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ハ二週日以内臨時會期ハ一週日以内トス若シ會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ追加)

第二十六條 聯合會議ニ於テハ會議所所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十七條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員若クハ組合委員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議議員之ヲ選定スヘシ(二十九農商務省令第六號ヲ以テ本條中追加)

第二十八條 中央會議ノ議員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限ル(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ本條ニ追加以下順次繰下)

一 茶園一町歩以上ヲ所有シ栽培スルコト

一 製茶五千斤以上ヲ製造スルコト

一 製茶二萬斤以上ヲ賣買スルコト

第二十九條 前條ノ資格ニ該當スル者ナキ地方ニ於テハ其資格ニ最モ近キ者ヲ選出スヘシ

第三十條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額又ハ開港地ハ輸送額ノ多寡ニ從ヒ

規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十四年農商務省令第一二號ヲ以テ本條追加)

第三十一條 議員ノ任期ハ二箇年トス補闕議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ルヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ本條追加)

テ本條追加以下順次繰下

第三十二條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十三條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名竝ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其

中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアル

ヘシ

第三十五條 會議ハ議員半數以上出席セザレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ缺席三日以上ニ涉ルトキハ半數以內ト雖モト議定ヲ開クコトヲ得

第三十六條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十七條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ム

一 違約者處分ノ方法

一 經費賦課徴收支出ノ方法

一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十八條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

聯合會議所ノ位置

製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法

製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法

部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法

聯合會議議員及ヒ事務員選舉ノ方法

聯合會議ニ關スル規程

違約者處分ノ方法

經費賦課徴收支出ノ方法

其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十九條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

中央會議所ノ位置

全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法

内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法

組合ノ位置

組合員ノ證券

粗悪不正茶取締ノ方法

役員選舉ノ方法

組合入退社取扱ノ方法

- 一 中央會議議員及ヒ事務員選舉ノ方法
- 一 中央會議ニ關スル規程
- 一 經費賦課徵收支出ノ方法
- 一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章 罰 則

第四十條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

● 郵 便 貯 金 法

(明治三十八年二月十五日)
法律第二十三號

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

- 一 一度ノ預入額 十錢以上
- 二 貯金總額 千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲グル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金
- 二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
- 三 産業組合ノ預入金
- 四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外一人冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セス
前項ニ依リ利子ヲ付スヘカヲヤル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキハ現ニ存在スル貯金ニ

之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス
第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル爲頻ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閲ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日以内ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間滿了ノ日ヨリ三年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス
一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附 則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年以内ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年以内ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年以内ニ之ヲ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有効期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

●印紙税法

(廿八年一月非常特別税法ニテ増税)

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙税ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙税ヲ納ムヘシ但シ印紙税額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未満トナリ又ハ一錢未満ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ繰上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 (刪除)

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ

- 一 委任 狀 印紙税 貳錢
- 一 爲替 手形 印紙税 參錢
- 一 銀行預金證書 印紙税 參錢
- 一 船荷證券 印紙税 參錢
- 一 運送貨物引換證券 印紙税 參錢
- 一 倉荷預證券 印紙税 參錢
- 一 倉荷質入證券 印紙税 參錢

- 一 保險證券 印紙税 參錢
- 一 株券 印紙税 參錢
- 一 債券 印紙税 參錢
- 一 株式申込證券 印紙税 參錢
- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證券 印紙税 參錢
- 一 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證券 印紙税 參錢
- 一 定款及組合契約書 印紙税 參錢
- 一 權利ノ變更ニ關スル證券 印紙税 參錢
- 一 追認、承認ニ關スル證券 印紙税 參錢
- 一 物品切手 印紙税 參錢
- 一 賣買仕切書 印紙税 參錢
- 一 送狀 印紙税 參錢
- 一 受取書 印紙税 參錢
- 一 金高記載ナキ證書 印紙税 參錢
- 一 擔保品差入證書、擔保品預證券 印紙税 參錢
- 一 通帳 印紙税 參錢
- 一 判取帳 印紙税 參錢
- 一 約束手形 印紙税 廿五錢

金高千圓以下	印紙稅	參錢
金高五千圓以下	印紙稅	六錢
金高一萬圓以下	印紙稅	參拾錢
金高參萬圓以下	印紙稅	六拾錢
金高五萬圓以下	印紙稅	壹圓廿錢
金高拾萬圓以下	印紙稅	貳圓四拾錢
金高拾萬圓ヲ超エルモノ	印紙稅	五圓

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

- 一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
- 一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
- 一國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 一慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
- 一俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
- 一小切手
- 一金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形
- 一營業ニ關セサル受取書
- 一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
- 一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一株券、債券ノ讓渡ヲ證明スベキ裏面記載
- 一手形ノ引受、保證

一手形及證券ノ拒絕證書

一手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者

ノ所持ニ係ルモノハ此法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

●新國民軍條例

(明治三十七年十二月五日)
勅令第二百三十三號

第一條 國民兵役ニ在ル者ハ主トシテ國民軍ノ要員ニ充ツ

第二條 左ニ掲クル者ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入スルコトヲ得

一 退役陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ラサル者

二 元陸軍下士、上等兵及之ト同等階級ノ者ニシテ國民兵役ニ在ラサル者

第三條 師團長ハ國民兵役ニ在ル者ニ對シ國民軍ノ闕員ヲ補充スル爲補充召集ヲ行ヒ且必要ニ應

シ臨時召集ヲ行フコトヲ得其ノ召集ノ手續ハ陸軍召集條例中國民兵召集ノ例ニ依ル

前項ニ依リ臨時召集ヲ行フ場合ニハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ時機切迫シテ命ヲ請フノ途

ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル退役將校、同相當官、准士官又ハ第二條第一號ニ該當

スル者ハ部隊編入ノ後必要ニ應シ拔擢進級セシムルコトヲ得但シ其ノ役種ヲ變スルコトナシ

第五條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及第二條第二號ニ該當スル者ノ中下士タリシ者ハ部

隊編入ノ際前官等相當ノ下士ニ任シ必要ニ應シ拔擢進級セシム

第六條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及第二條第二號ニ該當スル者ノ中上等兵又ハ之ト同

等階級ノ者ハ部隊編入ノ後必要ニ應シ下士ニ任スルコトヲ得

第七條 前三條ノ場合ニ於テ士官以上ノ任官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ陸軍大

臣ニ稟申シ准士官以下ノ任官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ得テ師團長又ハ

之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第八條 國民兵ノ召集解除ニ關シテハ陸軍召集條例中充員召集ノ解除ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者又ハ第二條ニ該當スル者ニシテ准士官以上ニ進級シ

タル者ハ退役トシ下士ニ任セラレタル者ハ召集解除又ハ除隊ノ際其ノ官ヲ免セラレタルモノト

ス

第十條 陸軍召集條例第二條ニ依リ國民兵召集ヲ行ヒタル司令官師團長ニ非サルトキハ國民兵補

充召集臨時召集及准士官以下ノ任官ニ付テハ師團長ト同一ノ權ヲ有ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國民軍條例ハ之ヲ廢止ス

●下士兵卒家族救助令

(明治三十八年二月
勅令第三十七號改正)

第一條 戰役ニ際シ召集セラレタル豫備役後備役補充兵役國民兵役下士兵卒ノ家族ハ其召集中本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ救助ス

第二條 本令ニ於テ家族ト稱スルハ召集ノ當初ヨリ引續キ應召者ト同一ノ家ニ在ル祖父母父母妻
子兄弟姉妹ヲ謂フ但シ召集中出生シタル嫡出子ハ召集ノ當初ヨリ其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第三條 救助ヲ受クヘキ者ハ下士兵卒應召ノ爲生活スル能ハサル者ニ限ル

第四條 救助ノ程度及方法ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條 下士兵卒逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ逃亡又ハ刑期中ノ日數ニ等シキ期間救助ヲ停止ス

前項ノ停止ハ公ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ始ム

第六條 下士兵卒死亡若ハ生死不分明トナリタルトキ又ハ傷痍若ハ疾病ニ依リ召集ヲ解除セラレタルトキト雖本令ノ救助ハ仍三箇月之ヲ繼續ス

第七條 本令ノ規定ハ戰役ニ際シ現役ヲ延期セラレ又ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル下士兵卒ノ家族ニ之ヲ準用ス

附 則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

●軍人恩給法

(明治二十三年六月
法律第四十五號)

第一章 總 則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

- 一 退職恩給
- 二 免除給恩
- 三 増加恩給
- 四 賑恤金
- 五 給助金
- 六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齢滿二十歳ニ至ルマテ賑恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、増加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

- 一 現役十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ年限ノ年齢ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘズ退職シタルトキ

二 戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

三 戦地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ休職、停職、満期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ服役満期トナリ或ハ痲傷ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩職ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官

若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 再ヒ現役ヲ離ルルトキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ増加セス

第九條 増加恩給ハ戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ

二 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

四 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ病疾ニ罹リタルトキ

五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

六 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階ニ從ヒ左ノ各號ニ依リ之ヲ給ス

一 戦闘ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ニ在リテハ第三號表甲號ノ金額

二 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リタル者ニ在リテハ第三號表乙號ノ金額(三十七年三月改正)

第十一條 戦闘及戦時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ理役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年

二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三個年

第十二條 傷疾疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

一 傷疾疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 傷疾疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官證書若クハ陸海軍醫官ノ查覈ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

一 戦闘ノ爲メ傷疾ヲ受ケ現役ヲ離レタルトキ

二 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ（三十七年三月改正）

第十五條 賑恤金ハ前條ニ該當スル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階ニ應シ前條第一

ニ當ル者ハ第三號表甲號第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十三箇年分ヨリ多カラス前條第二ニ當ル者ハ同表乙號第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十三箇年分ヨリ多カラサル金額トス（三十七年三月改正）

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日

三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ准士官以上ハ其准士官ニ任シタル日

四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上初任ノ日但シ給助金ヲ受ケタル後甫ヒ現役ニ就キタルトキハ其前服役ノ日(三十七年三月此項改正)

第三 服役年ノ終期

一 現役ヲ離レタルノ日

第十八條 左ニ掲クル日數ハ服役年ニ通算ス

一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數

二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數

三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數

四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受ケヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三

五 現役ノ者陸軍見習士官海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數

第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

一 刑期中及逃走中ノ日數

二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限ニアラス

三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數

四 年齡十七歲未滿ノ日數

第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス

第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二個年

二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一個年

三 臨戰合圍地境内ニ於テ服役シタルトキハ外國ニ在テハ二個年内國ニ在テハ二個年

四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一個年

五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半個年ニ加算ス其其航海十二個月ニ超ユルトキハ更ニ半個年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セズ

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二個月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二個月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タル分限ヲ失ヒタルトキ

三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ

四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナリタルトキ

五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第三十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ劊官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十五條 退職恩給、免除恩給、增加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タル分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ劊奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ

但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキ及准士官以下ニシテ文官判任以上ニ任セラレタ

ルトキハ此限ニアラス(二十三年法律第七十八號ヲ以テ但書中追加)

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

增加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレハ停止セサルモノトス

第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

第二十七條 軍人左ノ各號ノ一ニ當リタルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス

(三十五年法律四十五號ヲ以テ改正)

一 戦死シ又ハ戦闘ニ因ル負傷ノ爲メ死歿シタルトキ

二 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ戦地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死歿シタルトキ

三 退職恩給若クハ免除恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ死歿シタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ前條第一號ニ當リタルトキハ第五號表甲號、第二號ニ當リタルトキハ第五號表乙號、第三號ニ當リタルトキハ第五號表丙號ニ依ル(同上)

第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三 扶助料ヲ受クハキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサルトキ

四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止ス

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿フルトキハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナキ若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人

現役中ヨリ引續キ同一戸籍内ニ在ル者ニ限リ寡婦ハ尙陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル(三十七年三月改正)

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ

恩給ヲ受クル權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵當トシテ差押フルコトヲ得ス

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但明治九年達陸軍武官恩給

令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其權利消滅及廢止ハ此法律ニ依ル
明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタル者並ニ明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若クハ派遣シタル者ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第四十五條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

附 則

本法(三十七年三月改正ノ分)ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治三十七年二月六日以後本法施行ノ日迄ニ於テ

左ノ各號ノ一ニ該當シタル者又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ金額ハ本法ノ規定ニ依ル(以下表共三十三)

- 一 戰死シタル者
- 二 戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケ死歿シ又ハ現役ヲ離レタル者
- 三 戰地公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ死歿シ若ハ現役ヲ離レタル者

本法施行以前免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金又ハ扶助料ヲ受クヘキ權利發生シタル者ニ給スヘキ金額ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外總テ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ免除恩給ヲ受ケ死歿シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料及扶助料ヲ受クルノ權利消滅シタルカ爲轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ從前ノ規定ニ依ル

第十七條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者及現役中若ハ現役ヲ離レタル後死歿シタル者ニ關シ之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ基キ給スヘキ退職恩給、增加恩給、扶助金又ハ扶助料ノ金額ハ軍人現役ヲ離レ又ハ現役中死歿シタル當時ノ規定ニ準據シ其ノ支給ハ本法施行ノトキヨリ起算ス

第四項ノ規定ニ基キ恩給ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス

(別表)

第二號 免除恩給表

年 數	官 等				海軍一等卒	陸軍上等兵	海軍二等卒	陸軍一等卒	海軍三等卒	陸軍二等卒	海軍四等卒	陸軍三等卒	海軍五等卒
	下 等	三 等	四 等	官									
二十一年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十二年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十三年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十四年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十五年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十六年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十七年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十八年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二十九年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四十	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第三號 增加恩給表

年 數	將官及相當官				佐尉官及相當官				准士官				下士官				
	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等	一等	二等	三等	四等
二十七年	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
二十八年	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
二十九年	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十年	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十一	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十二	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十三	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十四	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十五	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十六	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十七	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十八	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
三十九	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
四十	100	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110

第一項	親任				官				判任官				海軍			
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等	一等	二等	三等	四等
1,400	1,100	1,000	900	800	700	600	500	400	300	200	100	50	50	50	50	50

●軍人恩給法施行規則

(明治二十三年七月
閣令第五號)

軍人恩給法施行規則左ノ通定ム

軍人恩給法施行規則

第一條 軍人恩給法ニ依リ退職恩給免除恩給増加恩給賑恤金扶助金ヲ受クヘキ者ハ其請求書ニ履歷書ヲ添ヘ公務ノ爲メ受ケタル傷痍疾病ニ起因シテ之ヲ請求スル者ハ軍人恩給法第十二條ニ掲クル書類ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ヨリ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ

第二條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ資格アル軍人死歿シタルトキハ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ

軍人恩給法第二十七條第一ニ當ル者アリタルトキハ所管長官ヨリ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ其遺族ニ下付スヘシ

第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ戶籍謄本及左ニ掲クル書類ヲ添ヘ住所ノ地方長官ニ差出スヘシ(三十七年三月閣令第二號改正)

一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歷書

二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類

三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書

四 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ

者ハ前者ノ恩給證書

五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫

六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル廢疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハザル者ハ第一第二若クハ

第三若クハ第四ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書

地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視局員ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ

第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ、其傷痍疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆覈ヲ經タル書類、軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉姉ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ヲシテ認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例

ニ依ル

第七條 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ戶籍ヲ去リ若クハ婚嫁シ若クハ支給期限ノ滿タルトキハ地方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷痍疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭家家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一 死歿又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住處ヲ轉シタルトキ (二十七年閣令第七號ヲ以テ改正)

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第十一條 (三十七年三月閣令第二號削除)

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

明治三十五年法律第四十五號 (軍人恩給法中)

改正施行手續

(明治三十五年六月閣令第二號)

第一條 現ニ扶助料ヲ受クル者明治三十五年法律第四十五號附則ニ依リ其ノ増加ヲ受ケムトスルトキハ請求書ニ恩給證書ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 地方長官前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ明治三十五年六月迄ニ係ル扶助料ノ交付ヲ了シタルヤ否ヤヲ調査シ其ノ交付ヲ了セサルモノナルトキハ交付ノ上請求書ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ差出スヘシ

第三條 明治三十五年法律第四十五號施行前ニ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ權利發生シタル場合ニ於テ其ノ權利ヲ有スル者同法附則ニ當ルトキハ轉給請求書ニ軍人ノ戰死シ又ハ戰傷ニ因ル負傷ノ爲メ死歿シタル旨ヲ明記スヘシ

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣請求書ノ進達ヲ受ケ請求ノ理由アリト認ムルトキハ扶助料計算書ヲ作り軍人ノ戰死又ハ負傷ノ事實ヲ認ムヘキ當時ノ證據書類ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第五條 本令ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ軍人恩給法施行規則ノ例ニ依ル

官吏恩給法

(明治二十三年六月
法令第四十三號)

百八十六

朕官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏恩給法

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年齢六十歳ヲ超ニ退官ヲ許シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラヌ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年

未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス
實際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス
兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二個年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス
明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

百八十七

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩恩ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月

四 非職及休職中ノ日數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一 年齡二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數(三十三年法律第十號ヲ以テ本號中改正)

四 御用掛履等外出仕勤仕ノ月數

五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依

リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラザンハ増加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齡未タ六十歳ニ至ラズシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市長町村長助役收入役名譽職參事會員及東京市京都市大阪府北海道ノ區長ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス(三十三年法律第十號ヲ以テ本項改正)

第十四條 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ヲキモノトス(同上)

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷官現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

- 一 傷疾疾病ノ原因及其輕重
- 二 職務ニ堪エルト否ヲサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年內ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス從前ノ命令ニシテ此法律ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

●官吏恩給法施行規則

(明治二十三年七月 閣令第三號)

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

- 一 在官中履歷書
- 二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添附スルコト及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

- 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
- 二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ内閣總理大臣ニ差出スヘシ各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラヌ之ヲ支給ス(二十七年閣令第五號ヲ以テ條中追加)

第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受クル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其ノ旨ヲ新舊居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其ノ一期ノ金額ハ尙ホ従前ノ地方廳ニ於テ支給ス(二十七年閣令第五號ヲ以テ全條改正)

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一ヶ月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

- 第一項 兩眼ヲ盲シ若シクハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ瘻傷ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ瘻傷ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
- 第六項 前項ニ準スヘキ瘻傷ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給